2019 年度 文部科学省

# 「専修学校による
# 地域産業中核的人材養成事業」
# まちづくりファシリテーター養成講座
# 事業概要

令和２（2020）年３月

一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構

# 目　　次

## 第１部　事業概要


１−１　事業の背景　……　２
１−２　事業の趣旨・目的　……　５
１−３　事業推進の流れ　……　６
１－３－１　本事業の取り組み概要とスケジュール　……　６
（１）開発する教育カリキュラム・プログラムの概要　……　６
（２）具体的な取組　……１０
（３）今年度の具体的活動　……１１
１－３－２　事業体制と委員会構成　……１３
（１）事業体制のイメージ　……１３
（２）構成機関等　……１４
（３）各機関の役割・協力事項について　……１４
（４）効果普及想定地域　……１５
（５）事業を推進する上で設置する会議　……１６
（６）事業を推進する上で実施する調査　……１９
（７）開発する教育カリキュラム・プログラムの検証　……２１
（８）事業実施に伴うアウトプット（成果物）　……２２
（９）本事業終了後※の成果の活用方針・手法　……２３
１－３－３　実施委員会の開催実績　……２４
〇第一回合同委員会（実施員会＋調査分科会）
／2019 年 11 月 26 日　……２４
①議事次第　②議事録
【資料】第一回合同委員会　会議資料リスト
〇第一回調査分科会／2020 年１月 10 日　……３４
① 議事次第　②議事録
〇第二回合同委員会／2020 年１月 10 日　……３８
①議事次第　②議事録
【資料】第一回調査分科会・第二回合同委員会　会議資料リスト
〇第二回開発分科会／2020年3月5日　……５０
① 議事次第　②議事録
〇第三回合同委員会／2020 年３月５日　……５５
①議事次第　②議事録
【資料】第二回開発分科会・第三回合同委員会　会議資料リスト

## １−１　事業の背景

「まちづくりファシリテーターが必要な社会的背景（建築とまちづくり）」

空き家が 800 万戸を越え、全国平均で住宅戸数の１３．５％を占めるという状況がある。新築需要が減り、既存建物を改修して使用するというリノベーションの需要が伸びている。既存建物の利用を捉えた場合は、様々な方法を複合的に扱うことになる。また周囲の建物も含めた景観や街との関係に対しての配慮が求められる。つまり、建築とまちづくりとの関係性が生じてくるのである。また、既存建物の利用は、現物があるだけに施主が計画内容を理解しやすい状況にあり、設計プロセスに施主が参加しやすくなる。この参加型のデザインにより、専門家としての設計者と一般人である施主とがコラボレーションしやすい環境が生まれ、より使いやすく質の高い建築を生み出すことが可能となる。街づくりにおいては、1992 年の新都市計画法により、住民参加が奨励され、都市マスタープランが作られるなど、住民参加の中でまちづくりが行われることが主流になっている。つまり、利用者参加のデザインは、建築とまちづくりにおいて関係しながら同時進行している状況である。まちづくりにおける地域課題として中心市街地の活性化がある。東京都大田区では中心商店街の空き店舗問題、零細企業の衰退における空き工場問題があり、それらをエリアマネージメントの視点で総合的に活性化することが求められている。
（http://www.city.ota.tokyo.jp/sangyo/syogyo_sangyo/syoutengai-kasseika-menu.html）

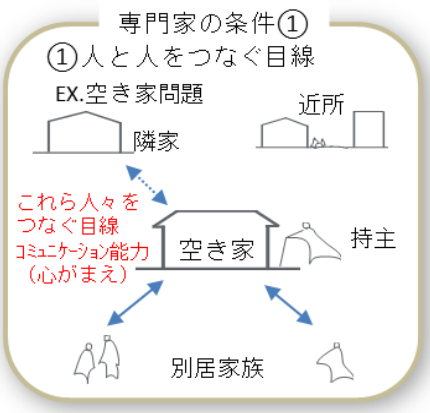
■参加型デザインに必要なまちづくりファシリテーター

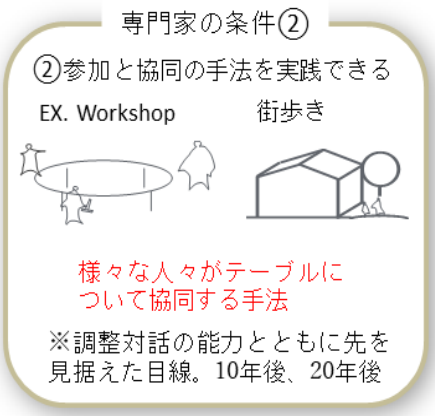
参加型デザインと住民参加のまちづくりにおいて、「まちづくりファシリテーター」という専門家が必要になってくる。これは、施主と設計、住民と行政を繋ぐ専門家である。現行の建築基準法は面積や高さといった数量的な規制や判断であり、そこには「良質や美しい、〇〇らしさ」といった定性的判断は含まれておらず、どこに行っても同じ街並みを作っている現状がある。この定性的な判断を入れる方法として協議調整（デザインレビュー）があるが、それを何らかの形で現状の制度・仕組みの中に取り入れる必要があるとされている。例えば景観法におけるデザイン審査、まちづくり条例における認定まちづくり協議会での建築計画事前説明などがある。この協議調整は、計画側と住民との間に入って調停の役割を担う専門家として、まちづくりファシリテーターが必要とされるのである。

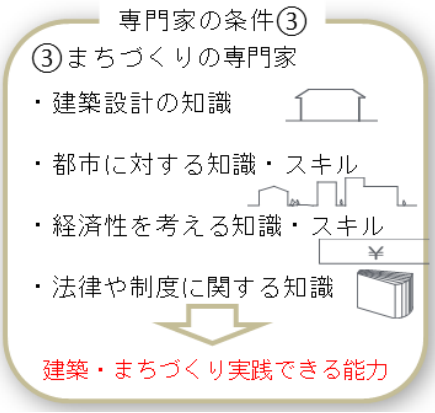
従来、この役割を行政担当者やコンサルタントが担っていが、体系的な学びの場がなく、当事業を通して、その仕組みを作る。

■人と人を繋げるまちづくりファシリテーターの役割

まちづくりファシリテーターの役割は、施主や市民など一般人に対して、行政や専門家の言葉を分かりやすく説明することである。また施主や市民のつぶやきや未整理な言葉に、意味を見出し、分かりやすくまとめる力や職能との協働が求められる場面において、うまくコミュニケーションができる力が必要とされる。この協働性について、何か専門性を持っていないと他の職能と繋がることが難しいという状況がある。つまりＴ字型専門性である。１つの専門性を持った上で、他の職能と繋がることが出来る幅広い知識やコミュニケーション能力である。建築やまちづくりを扱う上で、建築の専門性は極めて有効であり、建築の専門性に上乗せする形でまちづくりファシリテーターのスキルを持つ人材が、この養成講座の主要コンセプトである。




■高等教育機関の人材育成における社会的ニーズ

専修学校や大学という高等教育機関における学生資質の問題として、コミュニケーション能力の不足、がある。これは近代化、核家族化、情報化などの社会変化の中で、人と関わる機会が少なくなったことが原因と言われている。更に 1995 年問題（ウィンドウズ９５、インターネット元年）と言われる WEB 社会という現実から離れた仮想現実問題や、SNS 等におけるマニュアックな小コミュニティー問題が生じている。核家族社会において親の忙しさから子供とのコミュニケーションが少なくなる中で、人と関わる機会が極端に少ない家庭環境の中で、人と人を繋ぐ能力が育たぬまま社会に出ている状況が生じている。まちづくりファシリテーターは、人と人を繋ぐ専門家であり、コミュニケーションスキルを扱う職能である。この養成講座を経た人材は、建築やまちづくりに貢献することのみならず、あらゆる職種においても役立つことが期待される。折れやすい人間、挨拶ができない人間、自分の立場が分かっていない人間、人とコミュニケーションが取れずに引きこもってしまう人間、など現代社会が抱える問題を解決出来るコミュニケーション能力のある人間、換言すれば人間力を育てる講座とも言える。

■専修学校の特徴である専門性教育にコミュニケーション能力を付加する。

専修学校の多くは「資格」という専門性獲得が強みであるが、その専門性をベースにして、他の専門家と繋がるというコラボレーション能力が獲得できれば力強いアドバンテージとなる。まちづくりの現場では、建築のみならず、不動産や相続、経営など多様な専門性が求められる。これらすべての専門性を持つことは不可能であり、それぞれの専門家と協働し、エリアマネージメントの視点でまちづくりをすることになる。この意味で、建築の専門性をベースにしたまちづくりファシリテーター講座はニーズが高いと言える。

■各専修学校の特徴を活かしたネットワーク型講座

専修学校の１つの課題として、学校間の協働性が弱いことがある。それぞれ学校経営という意味で、ライバル関係であるという側面はあるものの、各専修学校の特徴を活かしたネットワーク型の講座も必要である。つまり、社会ニーズの多様化に従って、各専修学校ごとに講座や設備を抱えるのは負担が大きく、不合理と言える。都市型の専修学校と地方型の専修専門学校のそれぞれの特徴を活かし、上手くネットワークを構築することにより、互換性のある弾力的な講座も可能である。この意味では、スカイプを含む最新情報化技術を用いての連携授業も、協働性を大切にする意味でまちづくりファシリテーター養成講座に馴染む教育システムである。

具体的には、都市型専門学校においては情報系やデザイン系コースを持っており、地方型専門学校には大工系、農業系コースを持っている。総合的解決や地域に応じた解決が求められるまちづくり活動において、それぞれのスキルをトータルに学ぶというネットワーク型授業において、多様で柔軟な講座が可能になる。当事業提案において、（一社）日本建築まちづくり適正支援機構が主体となりニュートラルな立ち位置で、協力３専修学校の特徴を活かしたネットワーク型授業をすることにより、汎用性の高い「まちづくりファシリテーター養成講座」となる。

■各専修学校と行政や地域産業との連携を活かし、膨らまし、拡げる。

専修学校は行政（地方自治体）や地域産業との繋がりを持っており、それを膨らまし、拡げることにより、当講座の内容に反映させることや、地域のまちづくり活動に活かすことが可能となる。日本工学院専門学校は、「大田まちづくり学」として、大田区長や防災まちづくり課の方から講演をいただいたり、大田区の企業や団体から講師を招いた特別講義や街に出て地域活動のお手伝いを実施している。大田区は木密地域の問題を抱えており、行政にとって不燃化、耐震化を進めることが課題となっていることから、住宅メーカーとの連携で不燃化住宅の提案などの活動をしている。これらの連携活動を活かし、膨らまし、拡げることにより、まちづくりファシリテーター養成講座が、より実践的なものになる。

## １−２　事業の趣旨・目的

現在、地域における問題・課題として「空き家」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを総合的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネージメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりには、多様な立場の人が関わるため合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本事業では、専修学校の建築系コースにおいて建築をベースにした専門家を輩出することを目的とした「まちづくりファシリテーター養成講座」の開発を行う。本事業の成果については、将来的に専修学校生だけでなく大学生および実務者も受講可能とすることにより、幅広い教育としての活用も想定する。また、講座にて、まちづくり活動の現場で受講者が体験学習を行うことでより効果的な講座運営をはかる。

＜学習ターゲット＞

専修学校の建築系コースに所属する学生とする。

＜目指すべき人材像＞

建築をベースに、空き家活用やリノベーションなどの編集設計という今日的なスキルの専門性を有し、地域社会や多様な専門家と協働していく「まちづくりファシリテーター」

## １−３　事業推進の流れ

### １−３−１　本事業の取り組み概要とスケジュール

（１）開発する教育カリキュラム・プログラムの概要

〇名称　まちづくりファシリテーター養成講座

〇内容　【まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム概要】

開発するまちづくりファシリテーター養成講座の教育カリキュラム・プログラムは、６つの分野領域を扱っている。前後期の 30 コマで構成され、この内１０コマは実践講座となっているなど、体験学習を含めた特徴的カリキュラムである。

① まちづくり関連分野・領域

総合、Ａ：建築・デザイン　Ｂ：都市計画、Ｃ：合意形成・ワークショップ、Ｄ：不動産・経営・税金、E:修復・防災・エネルギー

② 時間数と履修

１年間、30 コマ、１コマは 1.5 時間で前後期ごとに考査を実施、前後期の考査をパスすれば、講座修了証書を発行する。受講生の希望により前後期別の履修証明書を発行することが可能。この講座は、社会人にも開かれており、履修ブックを発行し、各講座の履修状況が分かるようにして、複数年で修了することを可能とする。

③ 科目概要の特徴

上記シラバスの特徴は、理論と実践※にまたがる分野横断的カテゴリーであり、座学、演習、見学、参加体験で構成されている。また協力専修学校（都市型１校、地方型２校）の特徴を活かしたネットワーク型のカリキュラムとする

※は実践授業を想定する。

**■総合**

1.まちづくりファシリテーターとは何か

28.まちづくりフィールドワーク①※

29.まちづくりフィールドワーク②※

30.まちづくりフィールドワーク③※

**■A：建築・デザイン**

12.建築設計における参加型のデザイン

13.参加型デザインによる実例見学 ※

14.リノベーションまちづくり概論

15.リノベーション技術・実習 ※

18.インスペクション・耐震化・不燃化概論

19.演習※

**■B：都市計画**

2.都市計画における住民参加とファシリテーターの役割

3.まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力

4.コミュニケーション技術演習※

8.地域特性を活かす規制や法律

26.空き家空き地活用概論

27.事例見学※

**■C：合意形成・ワークショップ**

5.まちづくりの手法①

6.まちづくりの手法②

7.ワークショップ演習（KJ 法・コラージュ）※

**■D：不動産・経営・税金**

22.建築と不動産

23.演習※

24.今後の不動産業、宅建士の役割

25.演習※

**■E：修復・防災・エネルギー**

9.事前復興まちづくり

10.事前復興まちづくり演習※

11.建築・まちづくり事例講義

16.エネルギーとまちづくり

17.エネルギーとまちづくりの実践※

20.保存・修復とまちづくり

21.修復実例見学※

■総合 **実際のまちづくり活動等への体験学習（地域の実情で柔軟に設定） ※※**

まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ養成講座の前期・後期におけるカリキュラム・シラバスを以下に示す。1 コマ 1.5 時間で全 30 コマの合計 45 時間とする。各分野・領域ごとに座学で知識を得た後に、実践として演習・見学を位置づけ、理解しやすい構成としている。

※は実践授業を想定する。

| まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ養成講座カリキュラム・シラバス | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 前期15コマ | 分野・領域 | 番号 | 実践 | プログラム名 | 内容・狙い |
| | 総合 | 1 | | まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰとは何か | まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰの概要を理解する |
| | B、都市計画 | 2 | | 都市計画における住民参加とﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰの役割 | 都市計画の歴史の中での住民参加、専門家、ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰの役割 |
| | | 3 | | まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力 | まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰのコミュニケーションスキルと実践 |
| | | 4 | ※WS | コミュニケーション技術演習 | ロールプレイやディベイトを通してコミュニケーションのスキルを習得する |
| | C、合意形成ワークショップ | 5 | | まちづくりの手法① | まちづくりの目的に応じた手法、参加対象や募集の方法、実践スケジュールの立て方を理解する |
| | | 6 | | まちづくりの手法② | まちづくりの具体的手法を学ぶ、自己紹介、合意形成、街歩き、KJ法、コラージュの方法を理解する |
| | | 7 | ※WS | ワークショップ演習（ＫＪ法・コラージュ） | KJ法、コラージュを実際に行い、プロセスと留意点を学ぶ |
| | B、都市計画 | 8 | | 地域特性を活かす規制や法律 | なぜまちづくりにルールが必要なのかを含め、地域特性を活かすルール、規制や法律、まちづくり条例について学ぶ |
| | E、修復・防災・エネルギー | 9 | | 事前復興まちづくり | 事前復興まちづくり訓練、防災やフェーズフリーデザインを理解する |
| | | 10 | ※演習 | 事前復興まちづくり演習 | 事前復興まちづくりワークショップの演習 |
| | | 11 | | 建築・まちづくり事例講義 | 建築とまちづくりとの関係を事例を通して学ぶ |
| | A、建築デザイン | 12 | | 建築設計における参加型のデザイン | 建築設計における参加型の設計プロセスを事例を通して学ぶ |
| | | 13 | ※見学 | 参加型デザインによる実例見学 | 参加型の設計プロセスによってできた事例を訪問、見学し、利用者へのヒアリングを含め、学ぶ |
| | | 14 | | リノベーションまちづくり概論 | リノベーションとは何か？まちづくりとの関係、事例を通して学ぶ |
| | | 15 | ※演習 | リノベーション技術・実習 | リノベーションの演習課題を行い、それを通して、スキルの習得と共に留意点を学ぶ |

※は実践授業を想定する。

| まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム・シラバス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 後期15コマ | 分野・領域 | 番号 | 実践 | プログラム名 | 内容・狙い | |
| | E、修復・防災・エネルギー | 16 | | エネルギーとまちづくり | SDGsとまちづくりの関係、エネルギーとまちづくり、省エネ技術について学ぶ | |
| | | 17 | ※見学 | エネルギーとまちづくりの実践 | オフグリッドの実践事例を通して、エネルギーとまちづくりを捉える | |
| | A、建築デザイン | 18 | | インスペクション・耐震化・不燃化概論 | インスペクション、耐震化と不燃化の技術、方法、助成制度の仕組を、木造、RC造、S造の構造別に理解する | |
| | | 19 | ※演習 | 演習 | インスペクション、耐震化と不燃化の技術を用いた演習を行う | |
| | E、修復・防災・エネルギー | 20 | | 保存・修復とまちづくり | 保存、修復とまちづくり、歴史的建築物と近代建築の保存、指定・登録、利活用 | |
| | | 21 | ※見学 | 修復実例見学 | 保存、修復事例を訪問、見学する。可能であれば関係者からの説明を受け現状の課題を理解する | |
| | D、不動産・経営・税金 | 22 | | 建築と不動産 | 建築と不動産、経営、税金について理解する | |
| | | 23 | ※演習 | 演習 | 建築と不動産、経営等を捉えて、演習を行う | |
| | | 24 | | 今後の不動産業、宅建士の役割 | 今後の不動産業、宅建士の役割、マイナス不動産の活用を学ぶ | |
| | | 25 | ※演習 | 演習 | 不動産業の初歩的実務の演習を行い、その特徴と留意点を学ぶ | |
| | B、都市計画 | 26 | | 空き家空き地活用概論 | 空き家空き地の現状、問題点と課題、その解決策、行政の対応や助成制度、担い手について学ぶ | |
| | | 27 | ※見学 | 事例見学 | 空き家空き地の活用事例の見学 | |
| | 総合 | 28 | ※まち歩き | まちづくりフィールドワーク実習① | まち歩きのコメントが入ったビデオを見て、まちの読み取り方を学び、各グループでまち歩きを行う | |
| | | 29 | ※まち歩き | まちづくりフィールドワーク実習② | 発表（グループ別でスマホ撮影したもの）とディスカッション | |
| | | 30 | ※まち歩き | まちづくりフィールドワーク実習③ | 提案グループ | 修正版グループ |

（２）具体的な取組

【2019 年度】

〇実施項目①　調査

実態調査：「まちづくりファシリテーター」に関連する講座の実態について、学校側・学生側の双方から情報を収集

a.建築学科を設置している専門学校対象調査（調査①）

b.専門学校の建築学科の学生対象調査（調査②）

c.企業対象調査（調査③）

事例調査：開発する教育プログラムに類似または合致する講座の事例を収集（調査④）

〇実施項目②　開発

・評価基準の開発

ー調査の結果や先行事例の評価項目を参考に評価基準の開発

・カリキュラムの開発　ー調査結果や評価基準に則した、講座のカリキュラム開発

・教材開発

a.教材の基本設計　：学習内容の構成や各項目のページ数、学習時間の配分等

b.教材開発（一部）　：調査結果や先行事例を踏まえた教材の一部開発

c.手引書（一部）：地域などの事情を踏まえた運用、手引書の一部開発

〇実施項目③　会議　：　年に３回程度以下の委員会を開催する。

・実施委員会（11 月、１月、３月）

・分科会（11 月、１月、３月）

【2020 年度】

〇実施項目①　開発

・シラバスの開発

ー初年度開発のカリキュラムを踏まえて、講座の概要や評価基準等を記したシラバスの開発に着手

・教材本格開発

ー初年度開発の一部分の修正・改訂及び教育プログラムで活用する教材の本格開発

〇実施項目②　実証　：　教育プログラムの検証を目的とする実証講座の実施

ー実施場所：東京都内の専門学校

ー対象：建築学科生 20 名程度

ー期間：１か月程度

〇実施項目③　会議　：　年に数回程度以下の委員会を開催する。

・実施委員会

・分科会

（３）今年度の具体的活動

〇実施事項

実施項目①　調査：専門学校における実態調査、企業対象調査と事例調査を行なう。

調査① 建築学科を設置している専門学校対象調査

建築学科を設置する専門学校を対象として、本事業で開発する講座のニーズを調査するとともに評価基準やカリキュラムの開発を行う際の資料として活用していく。

調査② 専門学校の建築学科に在籍している学生対象調査

建築学科に在籍する学生を対象として、教育プログラムへの関心度合いをはかるとともに、効果的な学習方法などカリキュラム開発に役立てる。

調査③ 行政・企業対象調査

まちづくりに実績のある企業に対して必要とするスキル、知識、能力に関する調査を行うと共に人材の受け入れ側としての調査を行う。

調査④ 事例調査

| 調査名 | 建築学科を設置している専門学校対象調査 | 専門学校の建築学科に在籍している学生対象調査 | 企業対象調査 | 事例調査 |
|---|---|---|---|---|
| 調査目的 | 「まちづくりファシリテーター」に関連する講座の実態について、学校側・学生側の双方から情報を収集することによって、教育プログラムの開発の資料とする。 | | まちづくりに実績のある企業に必要とするｽｷﾙ・知識・能力を調査、人材受入側としての調査 | 本事業で開発する教育プログラムに類似または合致する講座の事例を収集し、教材開発の参考とする。 |
| 調査対象 | 建築学科を設置している専門学校 10 校程度 | 専門学校の建築学科に在籍している学生 100 名程度 | 連携企業技術教育、人材育成部署　5 社程度 | セミナー事例　等 20～30 件程度 |
| 調査手法 | 郵送アンケート　or　アンケートサイト | | ヒアリング・検証・資料提供依頼　など | インターネット調査 |
| 調査項目 | 講座の有無、本講座設置の意向、設置における課題、求めるスキル　等 | 専攻内容、希望職種、キャリアプラン、本講座に対する興味等 | 必要とされるスキル、知識、能力、人材イメージ、必要性、鋼材の有効性等 | 学習内容、学習目標、受講対象、学習時間、評価手法　等 |
| 分析内容 | 本講座のニーズ、本講座の受講者に求められる知識やスキル、講座設置に関する解決が必要な課題等 | | 教材・講座開発に求められる内容、講座の検証　等 | 養成に効果的な教材や教育方法、学習時間、評価基準　等 |
| 成果反映 | 調査の結果から、効果的な講座運営方法やカリキュラム開発、学習時間や内容等を検討していく際に活用していく。 | | 本講座で使用できるルーブリックなどに活用。講座の有効性の検証 | 効果的な事例については本事業でのカリキュラム開発や教材開発の資料とする。 |

これまでに実施されてきた類似する講座等の事例を収集し、本講座の教育プログラム開発への参考資料とする。

○実施項目②　開発

今年度は以下の３つの開発に取り組む。

・評価基準の開発

「まちづくりファシリテーター」として効果的な活動していくためには、必要な能力項目や水準を定めることが求められる。そこで前述の調査の結果や先行事例の評価項目を参考に本事業で開発する講座における評価基準の開発を行なう。具体的には、「総合」　「建築・デザイン」「都市計画」「合意形成・ワークショップ」「不動産・経営・税金」「修復・防災・エネルギー」の６つの領域でまとめることになる。

・カリキュラムの開発

前述の調査結果や評価基準に則して、本事業で開発する講座のカリキュラムの開発を行なう。講座は評価基準に伴い６領域から構成され、合計 45 時間程度の学習内容とする。カリキュラムの概要については、「開発する教育カリキュラム・プログラムの概要」にて示している。また、実践学習をより効果的に実施していくために、ワークショップ、実例見学などを実施し、関連する座学についてはｅラーニングを含めた自主学習を積極的に検討する。

・教材開発

a.教材の基本設計

本事業で開発する講座で活用される教材の基本設計を行なう。具体的には、学習内容の構成や各項目のページ数の策定、各領域における学習時間の配分等が挙げられる。また、動画ｅラーニングや PBL 教材の活用も検討する。

b.教材開発（一部）

本事業で行う調査の結果や既存の先行事例を踏まえて、前述した５つの領域の教材を一部開発する。今年度に開発する教材については、次年度に実証講座で活用し検証を行う。それを踏まえて、教材の本格開発を行なう。

実施項目③　会議

今年度では事業を推進していくために「実施委員会」「分科会」を３回程度開催する。

| | 実施委員会 | 分科会 |
|---|---|---|
| 議題 | 事業計画の策定、事業方針の提示、活動内容の確認、活動成果の評価　等 | 調査：調査項目の検討・確認、調査結果分析<br>開発：開発準備、開発項目の具体化　等 |
| 開催数 | 2019年度内に3度開催を予定（10 月、12 月、2 月） | |

### 1－3－2　事業体制と委員会構成

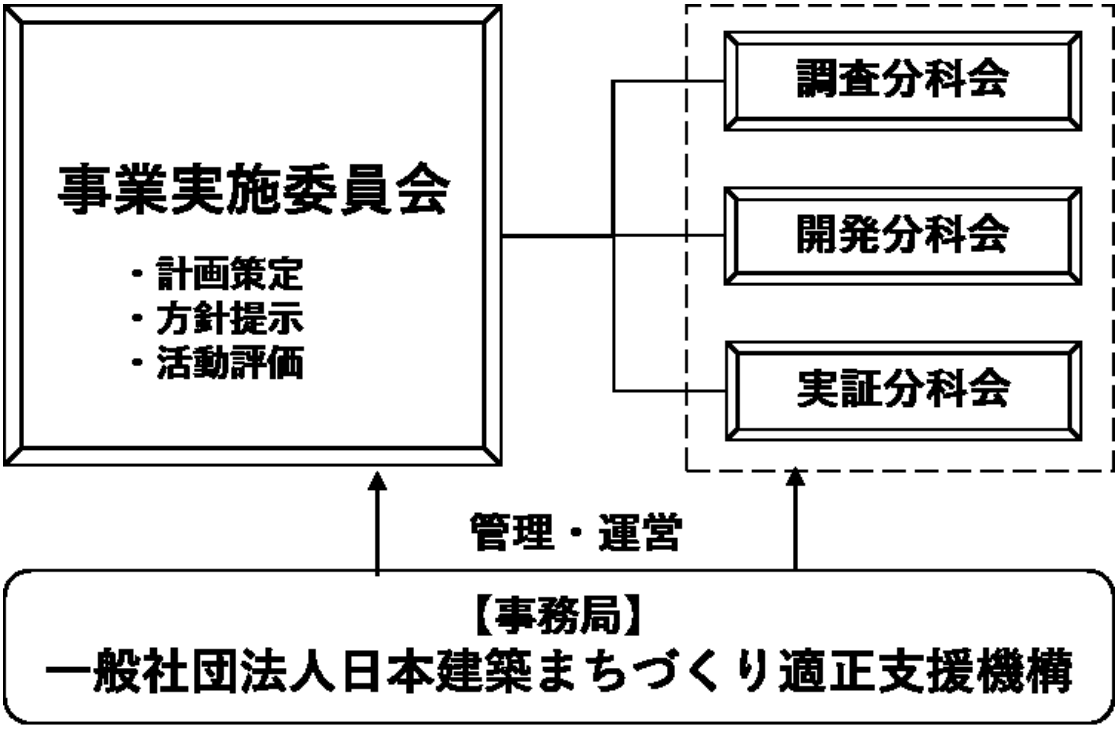
（１）事業体制のイメージ

まず、事業の推進にあたり、主体として「実施委員会」を設立する。実施委員会では、連携する行政機関や教育機関、業界企業・団体から構成され、本事業活動における計画の策定や方針の提示を行う。さらに、各事業の成果について評価を行い、必要に応じて方針修正や改訂内容を検討していく。

次に、実施委員会で議論された計画や方針を基本として、各事業活動の具体化および推進していく組織として「分科会」を設置する。分科会については、実施機関である当団体（一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構）をはじめとして、本事業連携機関における適任者および外部の協力者が参画し実作業を遂行する。分科会における活動成果については、事業実施委員会において評価を受け、必要に応じた修正等の管理を行う。

また、本事業全体の事務局機能は当団体が担う。具体的には連携機関等との事務連絡や実施委員会・分科会の準備、支出管理等を行う。

本事業における体制については下図のようなイメージで構築し、運用していく。



（２）構成機関等

①教育機関

・学校法人片柳学園日本工学院専門学校
・学校法人麻生塾麻生建築＆デザイン専門学校
・学校法人国際総合学園新潟工科専門学校

②企業・団体

・NPO 法人日本住宅性能検査協会
・一般社団法人日本環境保健機構
・一般社団法人住宅建築コーディネーター協会
・一般社団法人不動産仲裁機構
・一般社団法人不動産仲裁機構
・一般社団法人チームまちづくり
・株式会社アットカマタ
・特定非営利法人モクチン企画
・パナソニックホームズ株式会社
・大東建託株式会社

③行政機関

・東京都大田区
・福岡県福岡市
・新潟県

（３）各機関の役割・協力事項について

〇教育機関

本事業で開発する講座内容について、専門教育を実施する主体として教育内容の構成や講座運営に対して助言や評価を行う。また、本事業における実証講座の運営や事業成果の導入支援等の活動を可能な限り担う。

〇企業・団体

資格取得等の講座運営に知見のある企業には、本事業で開発する養成講座の効果的な実施方法に関する助言や評価を行う。また、まちづくりへの専門性を有する企業には講座内容への協力を担う。団体についてはまちづくりや建築について広範囲に知見を持つ立場から、本事業の実施内容への助言や評価を行う。また、事業実施後の成果に関する普及活動への協力も行う。

〇行政機関

本事業で開発される成果を効果的に実施・運用していくために、当該地域に関する専門的な立場から助言等の協力を行う。

（4）効果普及想定地域

本事業における連携教育機関である専門学校（日本工学院専門学校・麻生建築＆デザイン専門学校、新潟工科専門学校）の所在する地域・地区、具体的には東京都大田区、福岡市博多区、新潟市中央区を想定地域としている。東京は不燃化・耐震化といった都市型課題、福岡、新潟は中心市街地活性化など地方都市型課題、各教育機関で行われる実証講座、その後の実践によって地域は若い活力と新たな動きを獲得する効果普及が想定される。その際にまちづくり適正支援機構は専門家や講師の派遣などを通じてその動きの醸成を手助けすると共に、今後、まちづくりを行う良いスパイラルを手助けしていくことが考えられている。

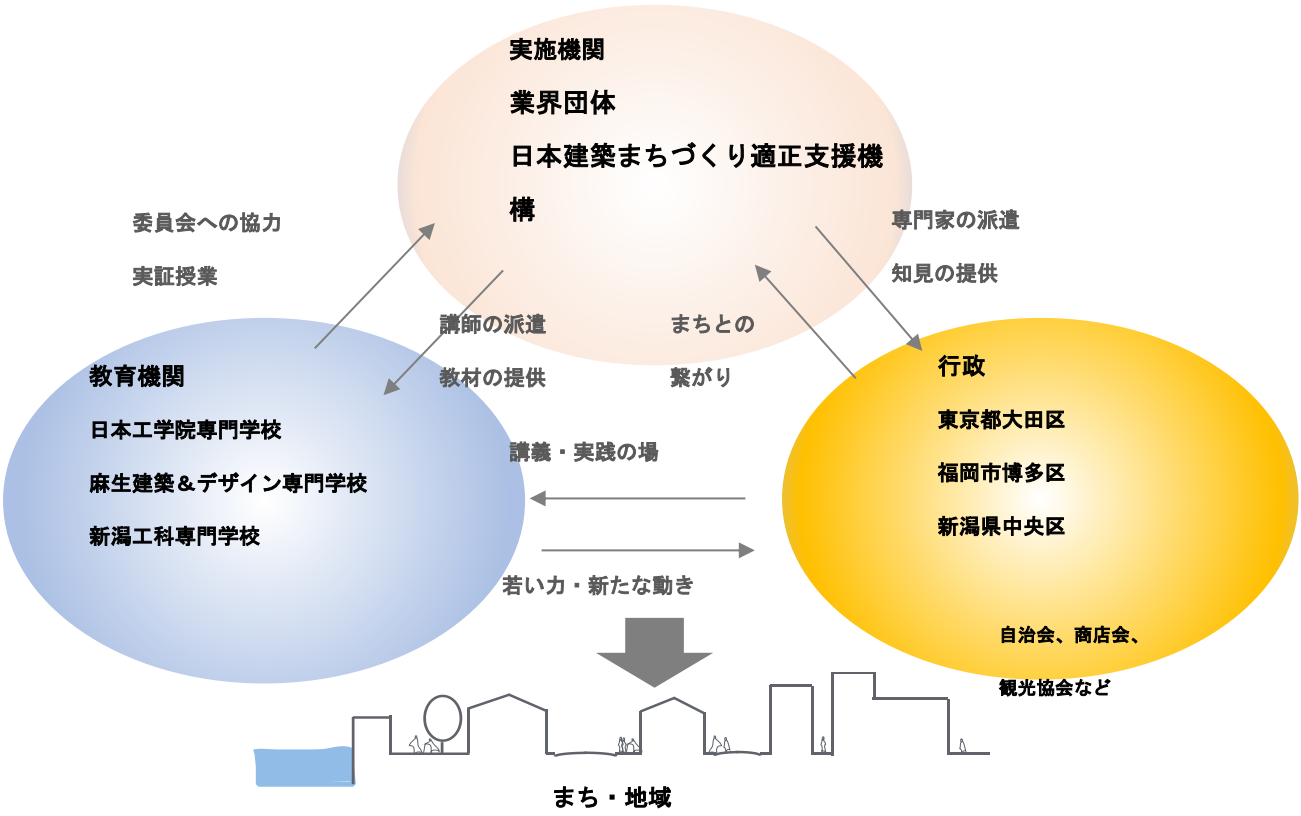



図　行政・教育機関・実施機関　連携図

（5）事業を推進する上で設置する会議

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会議名<br>① | 事業実施委員会 | | |
| 目的・<br>役割 | ・計画策定　・方針提示　・活動評価 | | |
| 検討の<br>具体的<br>内容 | 以下に示す通り、本事業活動における計画の策定や方針の提示を行う。さらに、各事業の成果について評価を行い、必要に応じて方針修正や改訂内容を検討していく。<br>・養成すべき人材像や必要なスキルの明確化<br>・事業計画の具体化<br>・事業推進の活動方針やスケジュールの提案<br>・事業推進の中間状況の確認<br>・事業成果に対する評価<br>・事業成果の展開に関する検討 | | |
| 委員数 | １０人 | 開催頻度 | 年　３回 |

事業実施委員会の構成員（委員）

| 氏名 | | 所属・職名 | 役割等 | 内諾 | 都道府県名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 連健夫 | 日本建築まちづくり適正支援機構 | 委員長 | ○ | 東京 |
| 2 | 松村哲志 | 日本工学院専門学校 | 副委員長 | ○ | 東京 |
| 3 | 山田俊之 | 日本工学院専門学校 | 委員 | ○ | 東京 |
| 4 | 今泉清太 | 麻生塾麻生建築＆ﾃﾞｻﾞｲﾝ専門学校 | 委員 | ○ | 福岡 |
| 5 | 仁多見透 | 国際総合学園新潟工科専門学校 | 委員 | ○ | 新潟 |
| 6 | 渡邊研司 | 東海大学 | 委員 | ○ | 神奈川 |
| 7 | 野澤康 | 工学院大学 | 委員 | ○ | 東京 |
| 8 | 市古太郎 | 首都大学東京 | 委員 | ○ | 東京 |
| 9 | 連勇太朗 | 特定非営利法人モクチン企画 | 委員 | ○ | 東京 |
| 10 | 高橋寿太郎 | 創造系不動産 | 委員 | ○ | 東京 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会議名<br>② | 調査分科会 | | |
| 目的・<br>役割 | 計画に必要な調査・分析。その検証と活用。 | | |
| 検討の<br>具体的<br>内容 | 実施委員会にて検討された計画や方針にしたがい、本事業遂行にあたって必要な調査の実施、調査結果の分析、本講座への活用について検討を行う。具体的には以下の四つの調査、分析、検討を行う。<br>１）建築学科を設置している専門学校対象の実態調査<br>２）専門学校の建築学科の学生対象実態調査<br>３）企業対象の実態調査<br>４）事例調査 | | |
| 委員数 | ９　　人 | 開催頻度 | 年　３回 |

**調査分科会の構成員（委員）**

| 氏名 | | 所属・職名 | 役割等 | 内諾 | 都道府県名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 連健夫 | 日本建築まちづくり適正支援機構 | 委員長 | ○ | 東京 |
| 2 | 松村哲志 | 日本工学院専門学校 | 副委員長 | ○ | 東京 |
| 3 | 今泉清太 | 麻生塾麻生建築＆ﾃﾞｻﾞｲﾝ専門学校 | 委員 | ○ | 福岡 |
| 4 | 仁多見透 | 国際総合学園新潟工科専門学校 | 委員 | ○ | 新潟 |
| 5 | 里中勝哉 | パナソニックホームズ株式会社 | 委員 | ○ | 大阪 |
| 6 | 高橋寿太郎 | 創造系不動産 | 委員 | ○ | 東京 |
| 7 | 西川直子 | 建築ジャーナル | 委員 | ○ | 東京 |
| 8 | 茨田禎之 | 株式会社アットカマタ | 委員 | ○ | 東京 |
| 9 | 松本昭 | チームまちづくり | 委員 | ○ | 東京 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会議名③ | 開発分科会 | | |
| 目的・役割 | 評価基準の開発、カリキュラムの開発、教材の開発 | | |
| 検討の具体的内容 | 実施委員会にて検討された計画や方針にしたがい、以下について推進する。<br>・評価基準の開発<br>・カリキュラムの開発<br>・教材（一部）<br>・手引（一部） | | |
| 委員数 | ９人 | 開催頻度 | 年　３回 |

開発分科会の構成員（委員）

| 氏名 | | 所属・職名 | 役割等 | 内諾 | 都道府県名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 連健夫 | 日本建築まちづくり適正支援機構 | 委員長 | ○ | 東京 |
| 2 | 松村哲志 | 日本工学院専門学校 | 副委員長 | ○ | 東京 |
| 3 | 今泉清太 | 麻生塾麻生建築＆ﾃﾞｻﾞｲﾝ専門学校 | 委員 | ○ | 福岡 |
| 4 | 仁多見透 | 国際総合学園新潟工科専門学校 | 委員 | ○ | 新潟 |
| 5 | 西川直子 | 建築ジャーナル | 委員 | ○ | 東京 |
| 6 | 阿部俊彦 | LLC　SMDW | 委員 | ○ | 東京 |
| 7 | 大槻一敬 | 大槻企画制作事務所 | 委員 | ○ | 東京 |
| 8 | 田中裕治 | 株式会社リライト | 委員 | ○ | 神奈川 |
| 9 | 連洋助 | 連ヨウスケアトリエ | 委員 | ○ | 東京 |

（６）事業を推進する上で実施する調査

| | |
|---|---|
| 調　査　名 | 建築学科を設置している専門学校対象調査 |
| 調 査 目 的 | 「まちづくりファシリテーター」に関連する講座の実態について、学校側・学生側の双方から情報を収集することによって、教育プログラムの開発の資料とする。 |
| 調 査 対 象 | 全国で建築学科を設置している専門学校を対象とする。<br>アンケート　１６校　　ヒアリング　協力教育機関　３校 |
| 調 査 手 法 | 郵送アンケート　　・　ヒアリング |
| 調 査 項 目 | 本事業で開発する講座に関連する講座の有無、事業で開発する講座の設置に関する意向、講座を設置する際の課題、教育側の視点から求めるまちづくりファシリテーターとしてのスキル　等 |
| 分 析 内 容<br>（集計項目） | 各学校における本事業で開発する講座のニーズや本講座の受講者にまちづくりファシリテーターとして求められる知識やスキル、講座設置に関する解決が必要な課題　等 |
| 開 発 す る<br>ｶﾘｷｭﾗﾑにどのように反映するか<br>（活用手法） | 調査の結果をもとに、専門学校において本講座を効果的に運営するためのマニュアルの作成やカリキュラム開発、学習時間や学習内容等を検討していく際に活用していく。 |

| | |
|---|---|
| 調　査　名 | 専門学校の建築学科に在籍している学生対象調査 |
| 調 査 目 的 | 「まちづくりファシリテーター」に関連する講座の実態について、学校側・学生側の双方から情報を収集することによって、教育プログラムの開発の資料とする。 |
| 調 査 対 象 | 専門学校の建築学科に在籍している学生を対象とする。<br>協力教育機関　２５０名程度 |
| 調 査 手 法 | アンケートサイト |
| 調 査 項 目 | 学年や専攻内容、卒後の希望職種または進路、建築業界におけるキャリアプラン、まちづくりに関する知識や経験の有無、本講座に対する興味　等 |
| 分 析 内 容<br>（集計項目） | 専門学校に在籍する学生の本講座への関心や、進路・キャリアプランの意識、まちづくりに関する知識・経験の有無、講座設置において解決が必要な課題　等 |
| 開 発 す る<br>ｶﾘｷｭﾗﾑにどのように反映するか<br>（活用手法） | 調査の結果から、学生が効果に講座を受講できる仕組みやカリキュラム開発、学習時間や内容等を検討していく際に活用していく。 |

| | |
|---|---|
| 調　査　名 | 行政・企業対象調査 |
| 調 査 目 的 | まちづくりに実績のある企業に必要とするスキル・知識・能力を調査、人材受け入れ側としての調査 |
| 調 査 対 象 | 連携企業技術教育、人材育成部署　８社<br>協力教育機関　地域行政　３箇所 |
| 調 査 手 法 | ヒアリング・検証・資料提供依頼　など |
| 調 査 項 目 | まちづくりファシリテーターとして必要とされる知識・スキル、求められる能力、目指すべき人材のイメージ、鋼材の有効性、本事業で開発するプログラムへの関心　等 |
| 分 析 内 容<br>（集計項目） | 教材・講座開発に求められる内容、講座への関心、まちづくりファシリテーターの資質・能力　等 |
| 開 発 す る<br>ｶﾘｷｭﾗﾑにどのように反映するか<br>（活用手法） | 求められる能力を明らかにし、講座の有効性をはかることで本事業で開発する講座のカリキュラム・シラバスの作成に活用する。また、本講座で実際に運用していく際の評価基準などに活用を検討する。 |

| | |
|---|---|
| 調　査　名 | 事例調査 |
| 調 査 目 的 | 本事業で開発する教育プログラムに類似または合致する講座の事例を収集し、教材開発の参考とする。 |
| 調 査 対 象 | セミナー事例　等　　５０件程度<br>事例代表ヒアリング　１件 |
| 調 査 手 法 | インターネット調査・ヒアリング |
| 調 査 項 目 | まちづくりまたはファシリテーターに関する養成講座の学習内容、学習目標、受講対象、学習時間、評価手法　等 |
| 分 析 内 容<br>（集計項目） | まちづくりを主体的に実施していく、またはファシリテーターとして活動していくことを希望する受講者を対象とした講座の効果的な教材や教育方法、学習時間、評価基準　等 |
| 開 発 す る<br>ｶﾘｷｭﾗﾑにどのように反映するか<br>（活用手法） | まちづくりに関連する講座またはファシリテーター養成の講座において本事業で開発する教育プログラムに沿う効果的な事例については本事業でのカリキュラム開発や教材開発の資料とする。 |

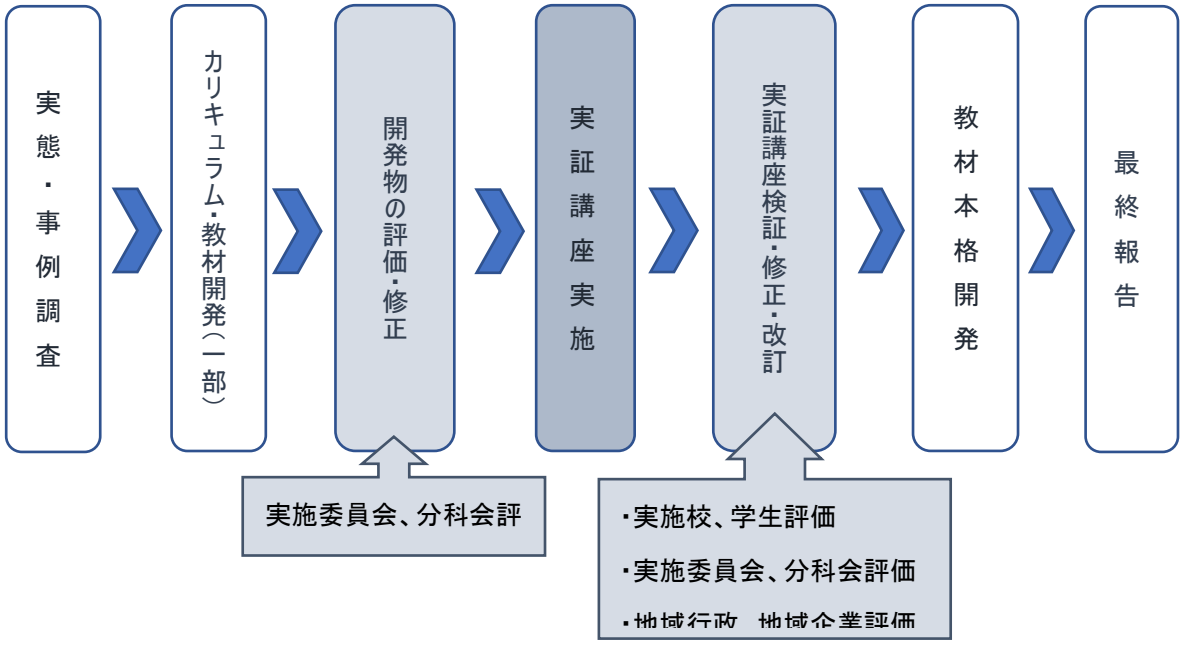
（7）開発する教育カリキュラム・プログラムの検証

〇検証方法

初年度ではまず、現状の情報収集として実態・事例調査を行なう。調査結果から得られた知見を活用し、講座のカリキュラムや教材の開発に取り組む。初年度で開発を行う一部の教材を用いて、次年度にて実証講座を実施する。

実証講座では、開発した教育プログラムの有効性をはかるために初年度に開発する評価基準を採用する。また、学生側からの観点だけでなく実証講座担当講師側からの評価、行政やまちづくりの専門家、建築の専門家の意見も組み込む。その結果を本事業実施委員会および分科会で検証を行なう。

また、地域行政、地域企業にも可能な範囲で検証してもらう。改善項目があれば、その都度対応することを想定する。様々な観点からの評価を通じて、教材の本格開発に取り組む。以下の図が検証の流れについてのイメージである。



（8）事業実施に伴うアウトプット（成果物）

◯最終的なアウトプット（成果物）

| 項目 | 概要 |
|---|---|
| ①実態・事例調査報告書 | 2019 年度に実施する実態調査、事例調査それぞれの結果をまとめ、分析を行った報告書。 |
| ②評価基準 | 本事業で開発する教育プログラムで目標とする人材像が有する知識・スキルについて、学生が到達しているのかを評価する指標。 |
| ③カリキュラム・シラバス | 合計 45 時間から構成されるカリキュラム。各科目の概要、使用教材、学習内容等を定めたシラバス。 |
| ④教材 | まちづくりファシリテーターとして活動していくために「総合」「建築・デザイン」「都市計画」「合意形成・ワークショップ」「不動産・経営・税金」「修復・防災・エネルギー」の知識を整理したテキスト教材。 |
| ⑤実証講座報告書 | 2020 年度に実施する実証講座の活動報告書。具体的には講座内容、実施時間、受講人数、実証結果等を表記する。 |
| ⑥成果報告書 | 各年度で実施した内容を記した報告書。 |

本事業における最終的なアウトプットは以下のとおりである。

◯各年度のアウトプット

本事業は 2019 年度から 2 年間実施する。各年度のアウトプットは以下のとおりである。

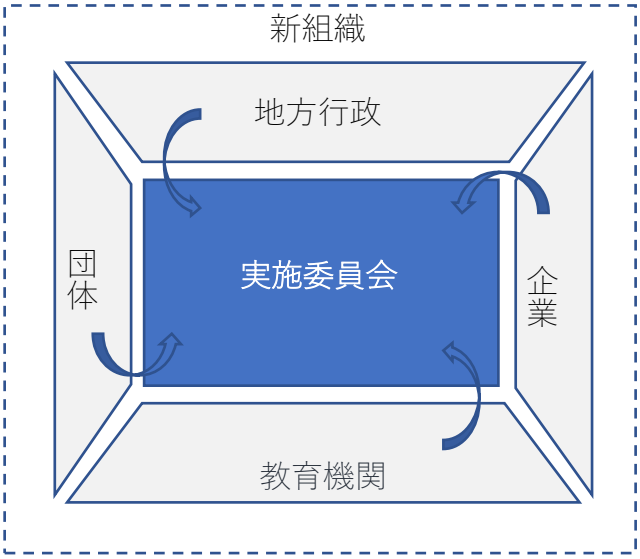
| | 2019 年度 | 2020 年度 |
|---|---|---|
| 項目 | ・実態調査報告書（2 種類）<br>・事例調査報告書<br>・評価基準<br>・カリキュラム<br>・教材（一部）<br>・2019 年度成果報告書 | ・シラバス<br>・実証講座報告書<br>・教材（本格開発）<br>・2020 年度成果報告書 |

（９）本事業終了後※の成果の活用方針・手法

〇成果活用方針①　体制整備・本格導入　≪２０２１年度～２０２２年度≫

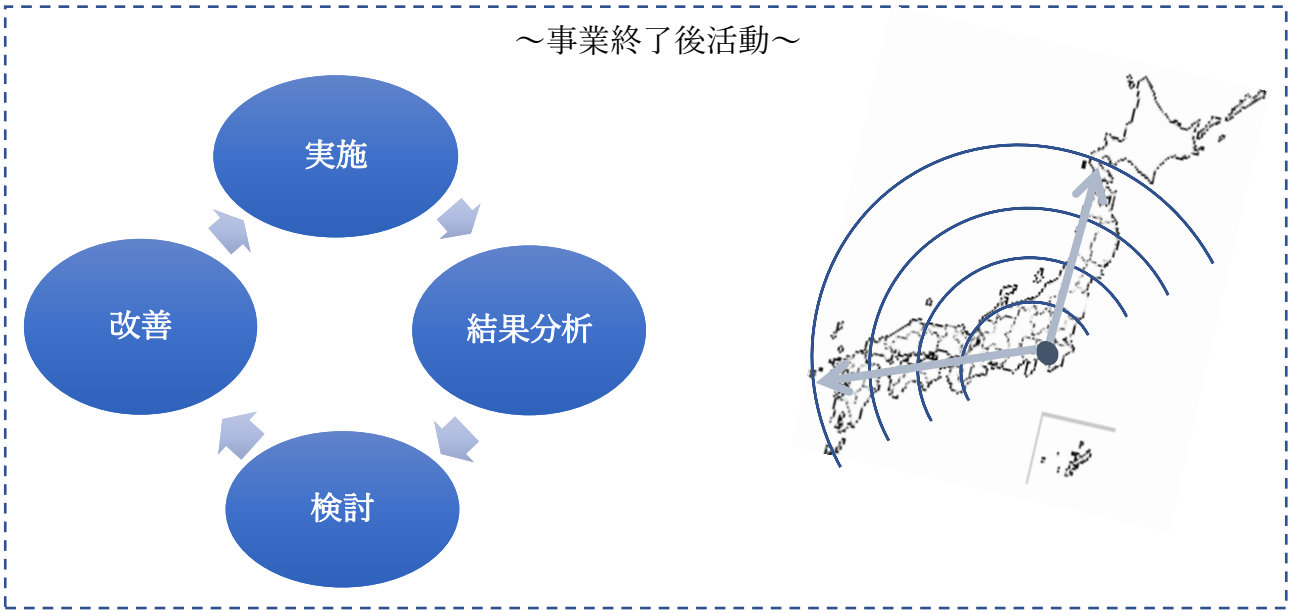
まず、２年間の本事業内で開発した教育プログラムの検討・改善等を行う組織が必要となる。そこで、本事業の実施委員会が中心となる新しい組織を設立する。当該組織が、本事業終了後の継続的な活動推進を管理・運営していく。

組織の発足後、本事業の成果物である教育プログラムの本格導入を推進していく。2021 年度は、本事業の対象地域である東京都の専門学校にて実施するための準備を行ない、2022 年度に講座を開設できるように取り組む。実施内容や結果については、検証を行ないながら必要なところは適宜改善していくこととする。




〇成果活用方針②　普及活動　≪２０２２年度～２０２３年度以降≫

2022 年度にかけて東京都にて実施する教育プログラムをもとに、2022 年度以降実施校の増加とともに普及活動も行なっていく。具体的には、地方の中心都市（福岡や新潟、仙台等）に所在し、建築学科を設置する専門学校を想定する。実施結果を検証し、更なる普及を目指していく。



1－3－3　実施委員会の開催

〇第一回合同員会

①議事次第

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第一回、事業実施委員会・調査分科会　合同委員会

〇日　時　：　2019 年 11 月 26 日（火）　15:00～18:00（途中 10 分休憩）
〇場　所　：　日本工学院専門学校　３号館　20 階　会議室
〇出席者　：
委員：　連健夫、松村哲志、山田俊之、市古太郎、連勇太朗、高橋寿太郎
里中勝哉、西川直子、茨田禎之
事務局　：　北村稔和、宮地洋
欠席委員：　仁多見透、松本昭、野澤康、今泉清太

１、委員紹介（自己紹介）

２、事業概要説明（連）

３、スケジュール確認（連）

４、テキスト案（連）

５、調査計画案　概要説明（松村）

６、調査④事例調査経過報告（松村）

７、調査③実施案説明（松村）
ヒアリング調査　ヒアリング項目案

８、調査①②計画案（松村）
アンケート調査項目案

９、教材開発に向けて（連）

１０、実践講座（見学・まち歩き・合意形成ワークショップ）の実現性（連）
（遠隔地における WEB 利用の可能性）

１１、その他

□次回：１月 10 日　　14:00～調査分科会　　15:30～18:30～合同委員会

②議事録

◯第一回合同委員会（実施員会＋調査分科会）／2019年11月26日

【第一回事業実施委員会、調査分科会議事録】記入者：北村

■日時：2019年11月26日（火）15~18時

■場所：日本工学院専門学校、会議室

■出席者：連健夫、松村哲志、山田俊之、市古太郎、連勇太朗、高橋寿太郎、里中勝哉、西川直子、茨田禎之

事務局：北村稔和、宮地洋

■配布資料：委員リスト、議事次第、事業概要書、事業全体ｽｹｼﾞｭｰﾙ、今年度ｽｹｼﾞｭｰﾙ、テキスト（案）、テキスト執筆要領、調査資料（学生、学校、企業、行政等）、既存事例調査中間結果、

１、委員紹介（自己紹介）

【連】

赤坂で設計事務所を経営。建築家。一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構の代表理事。

【松村】

日本工学院専門学校所属。実践（体験）と教育の融合に取り組んでいる。

【山田】

日本工学院専門学校所属。大田区のマスタープランの見直しの意見出しに学生を連れて行った。

【西川】

建築ジャーナル編集者。台東区の自宅をコミュニティスペースとして色々なイベントを行っている。台東区の不燃化も非常に問題になっている。

【北村】

まちづくりファシリテーター養成講座事務局を担当している。専門はエネルギー関係。

【連（勇）】

モクチン企画代表。木造賃貸の改築・改修を行っている。住まいのセーフティネットとして木造賃貸を提供するということも始めた。

【高橋】

創造系不動産の代表。元々建築に関わっており、建築家/建築士とタッグを組んで不動産コンサルティングを行っている。地方で空き家関連の対策の仕事等をしている、千葉県千葉市にいすみラーニングセンターを開校。来年から創造系旅行社を立ち上げ予定。

【里中】

パナソニックホームズの本社設計部署で設計方針立案及び設計者育成を行っている。優れた設計者をエキスパートデザイナーとして評価している。

【市古】
首都大学東京所属。気仙沼の集落移転のデザインにも関わる。木造密集地域に関しては東京都の委員会にも参加。
【宮地】
（株）アノバデザイン代表、事務局を担当。
【茨田】
アットカマタの運営を行っている。賃貸業をしながら街の活性化を目指している。
２、事業概要説明
【連】
行政と住民との間を創造的に繋げていく事がまちづくりファシリテーターに求められている。ＪＣＡＡＢＥの認定まちづくり適正建築士をより前段階に持ってきて、専門学校で重点的に勉強してもらい、実務を2年経験後、登録まちづくりファシリテーターとなり、一級建築士を取得後に、認定まちづくり適正建築士となるという枠組みを予定している。
（質疑）
【高橋】
連先生の新しくかつ大変なこの事業へのモチベーションはどこから湧いて出たのか。
【連】
大学院を出てゼネコン勤務後に胃を手術したのをきっかけにイギリスのＡＡスクールに留学し、大きく考え方が変わった。住民参加型のまちづくりや本質的に物を捉えるという事が重要だと感じ始めた。利用者参加のまちづくりやデザインに対して意識が向いた。東日本大震災に関わる事でそれは更に濃厚になった。同じ目の高さで住民と話しながら住民の声を分かりやすく行政に説明する。逆に行政側も住民の声をブレンドするという事が大事。そこに専門性を持ったファシリテーターが間を取り持つ事が必要ではないかと思った。それが今回の強いモチベーションになっている。
３、スケジュール確認
本日が第一回事業実施委員会、１月１０日に第二回、２月に第三回を行い、成果物を纏める。
2019年10月～2020年3月までの半年間で一旦の区切り。
再度２年目を申請して契約となれば2021年3月までもう１年事業が続く。
更にその先には各専門学校で講座実践を行うという流れになる

４、テキスト案

最終的にはＡ５で２１０ページ程度のものを考えている。

対象は専門学校２年生以上。一部は今年度に作成する。

海外からの学生及び海外でのまちづくりの為、英語版も作成する構想がある。

重要な事は図やイラストを入れて、いかに分かりやすくするかという事。

更に専門学校生に分かりやすくする為、まちづくりファシリテーターを漫画にしてチラシやテキストに入れ込もうと考えている。

（質疑１）

【連（勇）】

テキストは出版・販売可能なのか。

【松村】

事業が終了した後に文部科学省より著作権の使用許可を得て、出版・販売可能と聞いている。

また、補足すると、このテキストの目的としては裾野を広げる事とまちづくりに関する目線を獲得する事を目指している。

（質疑２）

【市古】

上記の目的とわかりやすさといえばもう少し章立てをキャッチーなフレーズにすべきではないか。表現が固いように感じる。

また、イラストや図を半分程度入れる事を考えるとＡ５→Ａ４で良いのではないか。

【松村】

今回の講座は実践の内容を大目に入れたいと考えており、携帯性を考えてＡ５にしている。

【連】

実践講座として演習・見学・合意形成のワークショップを全３０コマ中１５コマ入れようと思っている。また、今後は遠隔地での実践講座の開催方法についても議論を重ねたいと思っている。見学やまち歩きでも地域・地方に合わせた遠隔地開催が出来ればと思っている。

例えばスマホをまち歩きに持っていけば、その地点の説明や他の人の視点が聞けるなど。

【宮地】

上手く既存のシステムを使ってワークショップに参加したりするように出来ればと思っている。ＱＲやＡＲ、スカイプなどを使い、リアルタイムに相手がいない状況での講座を行える可能性はある。

【松村】

地域・地方によってまちづくりの問題点は異なる。その地域に誰と一緒に行くかが非常に重要。例えば連先生のコメント等を携帯等を利用して聞く事が出来る等。

（質疑３）【高橋】

建築と経営のあいだという書籍が2020年１月に出版される。
また、建築学科の為の不動産学基礎を執筆中。
課題となっているのは「難易度」。かと言って曖昧なものにしてもいけない。
全体を見た所、税金の部分を入れるべきではないか。
また、エリアマネジメントは１章もしくは３章に入れるべきではないか。
例えば法政大学の安井先生もエリアマネジメントの知見はかなり持っているが、
エリアマネジメントはもっと大きな概念じゃないかと思う。

【連】

エリアマネジメントというものがどういうものかを分かってもらいたいので、
第一章に入れた方が良いかもしれない。（質疑４）

【茨田】

具体的過ぎるかもしれないが、一般的なリサーチの手法を入れるべきではないか。

【連】

問題となっている理由・原因のリサーチ等は必要になってくる。その地域の現状把握など。

【連（勇）】

方法論を重視して書くのか、概念やトレンドを重視して書くのかのスタンスをどうするのか。章ごとに変えるのか、概念等を系統立てて書くのか。

【連】

方法をしっかり伝えつつ、その裏にある概念も伝えたいという想いがある。

【連（勇）】

概念と手法を同時に説明すると読み手側に負担を掛けてしまい、特に学生は混乱してしまう可能性がある。本全体で役割分担をすべきではないか。

【連】

テキストの執筆者それぞれの味を出してほしいし、気持ちを出してほしい。
方法とそれに対する概念というところは各執筆者に任せたい。

【松村】

テキストに合わせて手引書も作成したいと考えている。
それがないと難しいのではないかと思っている、そこに手法や概念の説明を入れた方が良いか。

【市古】
サーベイの方法等はやはりテキスト内に必要だと考える。
【連】
　住民やクライアントがまちづくりやデザインに関わると考えると、第２章にはリサーチやサーベイ等を入れることは必要かと思う。不動産ではどのような形で行われているのか。

【高橋】
確立した方法ではないが、全ての道を歩く、お店には全て突っ込む、賃料は全て見て回る等は行う。
Vision（ビジョン）
Finance（お金）
Real estate（不動産）
Design（デザイン）
Construction(施工)
Management（使う）
上記の６項目を順にもしくは並行して行う事が重要。
【連】
ファシリテーションは一つの専門性だけではダメなんだと気付いて欲しい。
住民たちが自分の街の良さに気づいて、場合によっては条例まで作った方が良い。
それに刺激を与えるのがまちづくりファシリテーター。
ファシリテーターの役割といったものがテキスト上で浮き出て欲しい。
それぞれのカテゴリーの中で学生が興味を持つ入口を与えてほしい。
５、シラバスについて
【連】
座学15コマ実践15コマについて遠隔地でどのように行うかについて次回以降にアイデアを頂きたい。
例えば連のビデオを撮ってもらう→それを遠隔地で流して学生に議論してもらう→それを連が見て講評する→それを学生に再度フィードバックする等。
６、調査計画案概要説明　　調査計画書の通り
７、調査④事例調査経過報告（松村）　　経過報告の通り（質疑１）
【連】
もし貴校で「まちづくりファシリテーター養成講座」を行うとしたら難しいと思う点は何か？という質問が非常に重要。
学生へのＷＥＢ方式でのアンケートはどのように行うのか。

【松村】
専用のアンケートサイトを用意して、ＱＲコードを各学校に配布する。その上で各校で実施してもらう。
【連】
いきなり学生に対して「まちづくりファシリテーター」について質問しても分からないので、漫画等による説明が必要かと思う。企業に対してもまちづくりファシリテーターについての説明やキャッチボールをしながら質問を行うという事で良いか。スキル等のチェック項目というのはどういう意味か。
【松村】
コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の各企業がチェックしているものがあるかを聞きたい。
【連】
チェック項目というより企業が大事にしている事は何か？という問いかけの方が分かりやすいのではないか。
里中さんの所ではどうか。何社程度協力してくれそうか。
【里中】
ヘーベルハウス、住友林業、積水ハイム、ミサワホーム、三井ホーム、パナソニックホームズは協力する。但し、まだまちづくりファシリテーターに対する理解が弱いので、やり方は工夫する必要がある。その上で担当者を決めるとの事。
【松村】
人材育成の担当者が適しているのではないか。
【里中】普通に行くと分譲開発の中で景観等に関わった事があるかどうという視点になりそうなので、再度打ち合わせが必要。
現状のコミュニケーションやプレゼンテーションスキルで行くと対お客様という形で見ているので、まち全体に対するという所ではないので、そこも見ていかなければならない。
【高橋】
富山県の朝日町で地域おこし企業人というのに登録しているが、富山県庁の課長はまちづくりのファシリテーターがまだまだ必要だと言っていた。
【松村】
調査の結果行政側では１０年以上ファシリテーターというワードは使われている。
（質疑２）
【西川】
今回の資格取得後の就職先はどのような所を想定しているのか。

【松村】
通常の就職先を想定している。
例えば東急電鉄等についてもまちづくりには自負を持っているようなので、
特に建築系だけではなく設計やディベロッパー、維持管理会社なども対象になる。

（質疑３）
【市古】
そもそも学生はまちづくりに興味があるのか。
【山田】
そこに正直時間を割けていない現状がある。まちづくりファシリテーターの説明動画を各校に送るなどして説明する必要がある。
理解度が低いと学生、学校から否定的な意見が多く出てくる可能性もある。
【市古】
年々学生の都市に関する関心が薄れてきているのではないかという懸念があるため、どのように建築単体からまちづくりへ意識を向ける事が課題。ファシリテーターという言葉についても同様かと思う。
【連（勇）】
建築に関わる若者よりもそれ以外の分野の若者のまちづくりへの関心は高まっているのではないか。
就職に有利になるというイメージも重要なのではないか。
企業へのアンケートやキャリアストーリーを学生に見せてあげる。
【宮地】
まちづくりについて興味を持つきっかけがないのではないか。
社会に出るとまちづくり的な視点は必要とされると学生は感じていると思うが、
現状は、それに対するカリキュラムが用意されていないと思う。
【市古】
地場の工務店からまちづくりに関わるというルートも見せてあげることも大事なのかと思う。
【西川】
都市計画とまちづくりの違いについても分かりやすくすることも大事なのではないか。
【連（勇）】
まちづくりファシリテーターは旗振り役ではなく、コミュニケーション能力が高く、関係調整を行い、まちのなかで三方良し、を作っていく役割ではないかと思う。
リクルーティングに関して企業側にもヒアリングを行った方が良い。
企業側が現状どのくらい求めているのかも知りたい。

【連】
コミュニケーションが高くＷｉｎ－Ｗｉｎの関係を作っていける人間は企業側としては欲しいはず。
【茨田】
建築というものが一つの視野に偏っているなか、まちづくり的な能力や視点の獲得に繋がるという内容も必要なのではないか
【市古】
災害ボランティアでは個別支援とコミュニティー支援が使い分けられる。
ファシリテーターには同様の考え方が求められる。

■次回：１月10日１４：００～調査分科会、１５：３０～１８：３０～合同委員会

【資　料】　第一回合同委員会（実施員会＋調査分科会）会議資料リスト

- 委員リスト
- まちづくりファシリテーター養成講座概要
- まちづくりファシ事業計画　単年度版
- まちづくりファシ事業計画　事業全体
- まちづくりファシリテーター　テキスト構成案
- 調査１　概要
- 調査２　概要
- 調査３　概要
- 調査４　概要
- 調査１　学校アンケート調査　原稿案
- 調査２　学生アンケート調査　原稿案
- テキスト執筆要領

第一回合同委員会

◯第一回調査分科会／2020 年 1 月 10 日

①議事次第

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第二回、調査分科会

〇日　時　：　2020 年 1 月 10 日（金）　14:00～15:30
〇場　所　：　日本工学院専門学校　３号館　９階　会議室
〇出席者　：
　　委員：　連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、松本昭、高橋寿太郎
　　西川直子、茨田禎之、古賀俊光
　事務局　：　北村稔和、宮地洋、窪田伊吹
　欠席委員：　里中勝哉

１、調査進捗説明（連・松村）

２、調査結果のまとめ方、方向等（松本）

３、意見、アドバイス等（委員）

４、その他

□次回開催日：3/5(木)　　14:00～開発分科会　　15:30～18:30～合同委員会

②議事録

◯第二回調査分科会／2020年1月10日

【第二回調査分科会議事録】　　記入者：北村稔和

■日時：2020 年 1 月 10 日（金）14：30~15：30

■場所：日本工学院専門学校、９階会議室

■出席者：連健夫、松村哲志、高橋寿太郎、西川直子、松本昭、仁多見透、今泉清太、古賀俊光

事務局：北村稔和、宮地洋、窪田伊吹

■配布資料：議事次第、調査資料（学生,学校,企業.行政等）、既存事例調査中間結果

１、委員紹介（自己紹介）

【高橋】

創造系不動産の代表。社員全員が設計事務所出身で不動産コンサルティングを行っている。

【松本】

一般社団法人チームまちづくり。まちづくりと合意形成を業務としている。

【西川】

建築ジャーナル編集者。建築業界が持つ矛盾や都市、建築が社会的資本である事を読者が学べるように出来ればと思っている。

【仁多見】

新潟工科専門学校、校長。学校は今年 27 年目。卒業生は 6000 名超。主な学生は新潟の地元。長野が少し増えてきている。

【宮地】

まちづくりの企画・運営をしている、事務局を担当。映像関係やテキスト、カリキュラムを担当

【松村】

日本工学院専門学校所属。当事業の副委員長を仰せつかっている。実証校の一員として参加。

【連】

赤坂で建築設計事務所をしている。建築家。一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構の代表理事。良質な建築、美しいまちづくりを目指している。

【今泉】

博多の麻生建築＆デザイン専門学校、校長代行。博多駅筑紫口徒歩５分の立地。博多の町おこしを行政と７～８年実施。

【北村】

事務局担当。専門はエネルギー。元太陽光モジュールメーカー出身。

## ２、調査分科会説明

【連】

事業実施委員会、調査委員会、開発委員会に分かれており、調査委員会では事業を実施するに当たり、関連各所に正確な調査を行う。活発な双方向の意見交換を期待している。

## ３、調査進捗説明

【松村】

添付の調査進捗資料を説明。

行政からはまちづくりファシリテーションは難しいという現場の声も聞くことが出来た。ルーテル学院大学では素養が大事だというヒアリングを得た。

【仁多見】

自治体への調査については、行政の方にどのくらい明確に伝えられるかによって、返ってくる答えが変わってくると思う。

【今泉】

学生アンケート自体は５分あれば回答可能。

【松本】

まちづくりというのは現場の知見。建築は作るという学問から脱却する必要がある。リノベーションや今の物を回すという視点が大切。

【高橋】

ヒアリングの技術（テクニック）が非常に重要。

アクティブラーニングの時間をどれだけ取れているかがポイントになると思う。

【西川】

８０年代くらいから住民参加に目覚めて、実施してきた林先生、富田先生にもお話をお伺いする事も良いのかと思う。是非そのバトンを受け継げれば良い。横浜のまちづくりの国吉先生にもヒアリングすると良い。

【松本】

まちづくりの合理的推進を目指す方には過度な住民参加を嫌がる方もいる。そのような方にまちづくりファシリテーターがどのような役割なのか、住民参加の意義は何なのかを教えてあげる事も大事。参加する事と決定する事はニアリーイコールでありながらイコールではない事を若い学生に分かりやすく説明してあげることが求められている。

【連】

イギリスで建築の物語性を学んだ。参加のデザインにより物語が構築できるとして、設計活動やまちづくり活動に活かしている。都市計画、まちづくりに参加が導入されたが、建築には参加の概念が弱いのが実情である。

【西川】

80 年代はワークショップが盛んに行われ、YES or No で合意形成が行われてきた。今

は変わってきているので、過去に実施された方から問題点等を聞く事が必要。

**４、実践講座について**

【松村】

30 コマ中実践 15 コマについて遠隔地でどのように行うか、どのように素養（態度や価値観）を学ぶのかという意味で、動画を試作した。学生役としての松村作成版とエキスパートとして連勇太朗さんに作成していただいたものをお見せする。

【宮地】

学生が受動的では無く、自分で街を見に行き、他の学生の内容も見ることで積極的に授業にかかわる事が出来ると思う。

【高橋】

動画作成の為に実際に現地に行くのか。ファシリテーションの技術等はまた別途行うのか。世田谷トラストまちづくりでは地域の皆さんを定期的にお連れするという事を実施している。意見は人や職業によって十人十色でその意見をプレゼンスさせる事が重要。その際、建築士はあまり発言し過ぎない。プラットフォームは SNS を考えているのか。

【松村】

合意形成ワークショップ等はまた別のやり方で実践を行う予定。新潟と博多にも行く予定をしている。

【宮地】

SNS は FACEBOOK、メッセンジャー等、既存のプラットフォームも考えている。

■次回：３月５日　１４：００～開発分科会、１５：３０～１８：３０合同委員会

◯第二回合同委員会／2020年1月10日

①議事次第

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第二回、事業実施委員会・調査分科会・開発分科会　合同委員会

〇日　時　：　2020 年 1 月 10 日（金）　15:30～18:30（途中 10 分休憩）
〇場　所　：　日本工学院専門学校　３号館　９階　会議室
〇出席者　：
委員：　連健夫、松村哲志、山田俊之、今泉清太、仁多見透、野澤康、松本昭、高橋寿太郎、西川直子、茨田禎之、阿部俊彦、大槻一敬、連洋助、古賀俊光
事務局　：　北村稔和、宮地洋、窪田伊吹
欠席委員：　里中勝哉、市古太郎、渡邉研司、連勇太朗

０、前回議事録確認

１、委員紹介（自己紹介）

２、事業概要説明（連）

３、調査関係、進捗状況（松村）

４、テキスト関係、進捗状況、（委員）

５、シラバス案（連）

６、遠隔地における WEB 利用／街歩き、コメント付ビデオ等（宮地）

７、その他

□次回開催日：3/5（木）　14:00～開発分科会　15:30～18:30～合同委員会

②議事録

○第二回合同委員会／2020年1月10日

【第二回事業実施委員会、第一回開発分科会議事録】　　記入者：北村稔和

■日時：2020 年 1 月 10 日（金）15：30~18：30

■場所：日本工学院専門学校、９階会議室

■出席者：連健夫、松村哲志、高橋寿太郎（代理：安藤）、西川直子、仁多見透、
今泉清太、阿部俊彦、連洋助、山田俊之、古賀俊光
事務局：北村稔和、宮地洋、窪田伊吹

■配布資料：議事次第、委員リスト、講座概要、単年度スケジュール、２年スケジュール、第一回議事録、テキスト構成、シラバス案

## １、委員紹介（自己紹介）

【山田】

日本工学院専門学校所属。創立 73 年。蒲田と八王子に２校ある。建築学科は 25 年目を迎える。２年制と４年制を併設している。ゼネコンの施工管理や設計補助、設計事務所、地元工務店等に就職している。山田ホームズと木密対策や未来型設計や東急電鉄多摩川線の駅の活用、設計等も協働で行っている。大田区役所のマスタープランの意見出しに学生が参加している。実証講座の実施は３年生の前期もしくは後期で考えている。

【安藤】

創造系不動産という名称で、建築と不動産の間を追求する事業を行っている。横浜国立大学等でも講義を行っている。

【阿部】

すまいまちづくりデザインワークスという設計事務所の共同代表。まちづくり、地域の活性化といった相談を受け、地域ビジョンを作りながら設計、改修設計等を行っている。早稲田大学の都市地域研究所の佐藤先生の研究室出身で、工学院大学の非常勤講師も行っている。

【西川】

建築ジャーナル編集者

【仁多見】

新潟工科専門学校。NSG カレッジリーグに所属、専門学校２８校が運営している。来年は２９校になる予定。建築、インテリア系の学科が４学科ある。建築士学科は在学中に２級建築士の合格を目指す学科である。建築士専攻科は２年学科を卒業後、内部進学し２級建築士の取得を目指す。建築デザイン科は BIM デザインの習得を中心に技能を学んでいる。インテリアデザイン科はインテリアデザイナーの資格取得を目指す。建築大工科において、週の半分は大工実習で、２年生になると屋外に出て、技術を学ぶ内容となっている。建築大工科は一番人気がある。実証講座は建築士専攻科で２級建築士試験後の集中講座を考えている。

【宮地】
　まちづくりの企画、運営を行う、事務局を担当。
【北村】
　まちづくりファシリテーター養成講座事務局を担当している。
専門はエネルギー関係。
【松村】
　日本工学院専門学校の教員、本事業では副委員長を仰せつかっている。
【連】
　本事業のまとめ役として委員長を担当している。イギリスのユーザー参加のまちづくりや多様な視点を学んだ。一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構が設立され、イギリスの CABE のような第三者機関として行政支援をする仕組みを作ることを目指している。認定まちづくり適正建築士、ADR 調停人という２つの資格を取り扱っている。まちづくりファシリテーター養成講座受講者が社会に出て認定まちづくり適正建築士に繋がっていくキャリアストーリーを作っていきたい。
【今泉】
麻生建築＆デザイン専門学校の校長代行を仰せつかっている。登校は、私たちの「夢」をかなえる宣言というのを校是としている。学校は今年８０周年になる。５学科の建築系の学科とクリエイティブデザイン科と併設している。建築工学科は３年コース。愛知学院大学と提携した大学併修コースも用意している。卒業時に学士資格と２級建築士の資格を取る事ができる。建築士コースは CAD、インテリア、夜間等のコースがある。建築学科は最短で２級建築士が目指せる学科。BIM の授業を選択出来る。CAD 科は PC 持ち込み授業が半分。インテリアデザイン科はインテリアコーディネーターを目指す。建築夜間は社会人向けである。特徴としては GCB 教育（社会人として必要なマインドを育成するグローバル、シティズン、ベーシック教育）を行っている。地域の経済界のトップに触れられたり、留学のチャンスもある。本日はオブザーバーとして古賀教員を連れてきている。氏は建築サークルを担当している。授業外での学びやボランティア活動等を行っている。まちづくりの実証授業はまちづくりサークルもしくは建築専攻科での実施を考えている。
【野沢】
工学院大学の教授、まちづくり、都市計画の研究を行っている。参加型のまちづくりを実務として学生、密集住宅地整備、まちづくり条例等を研究テーマとしている。
【連洋助】
漫画家。講談社や建築ジャーナルで執筆。建築科出身で建築を学んだ経験があり、今回はパンフレット等でまちづくりファシリテーターを分かりやすく伝えられるようにしたい。
【北村】
事務局担当。エネルギーを専門とする。

## ２、前回議事録確認

【北村】

前回議事録の確認

## ３、事業概要説明

【連】

まちづくりファシリテーターのキャリアストーリーと必要性の紹介

調査・開発・実証の次年度も含めたスケジュール確認

## ４、調査の進捗説明

【松村】添付資料の通り

## ５、テキスト作成の進捗説明

【連】前回の委員会でより分かりやすい章立てにした方が良いのではないかという意見があったので一部構成を変更している。

今年度、○が付いているテキストの一部については完成させる予定。

（テキスト執筆概要説明）

【連】

序章としてまちづくりファシリテーターの定義と役割、やりがい等について説明する。

【野澤】

書き出しのイメージとして

①都市計画と言われているものはそんなに古いものではなく、まずいつから始まったものなのかというところを書くつもり。

②前回都市計画とまちづくりの違いを書いた方が良いのではないかという話が議事録であったので、書き方を考えている。

③まち育てというスタンスも生まれてきているので紹介する予定。

その後日本における住民参加の流れを説明。

④まちづくりの参加者はどんな人がいますかというところを書く予定。

【連】

ファシリテーターという役割が生じたのは歴史的にはいつ頃からなのか。

【阿部】

明確には分からないが、ワークショップと言われだしたのは 1992 年の都市計画法の策定からではないか。

【西川】

1980 年代から先行的にファシリテーターというものが大事だと盛んに言われていた。

【野澤】

先進的な事例として墨田区や神戸の真野地区地域を紹介して、そこから地域のまとめ役やリーダーが出てきたのがファシリテーターの始まりという風に書こうと思う。

【松村】
まちづくりファシリテーターの必要性として、「素養」というものが必要とよく言われる。取り組むための態度といったもの。その必要性が企業、行政で求められている。
登場人物が多いので、それも例示したい。その中でエリアマネジメントも入れていきたい。２１世紀型の学び、暗黙知というものを高めるという部分で経験や実践を積んだ方が良いというメタ学習に繋がるものを出していきたい。最終的に自分で提案するという事を頑張っていきましょうというところを最後に触れたい。
【連】
まちづくりファシリテーターにはコミュニケーション能力が必要である事を中心に書いて欲しい。人とつながるという事が今後の将来にも重要だという事も学生の為に入れてほしい。ファシリテーションとは何か、具体的なコミュニケーション技術についても説明してほしい。シラバスの実践部分に繋がるパートとして書いてほしい。
１－４は饗庭さんに空き地空き家活用概論として執筆してもらう予定。概要をいただいた。いかに専門学校生に分かりやすく説明するかが大事だという事を饗庭先生にお伝えした。
【西川】
都市には色々な問題があるが、その中で空き家・空き地という個別問題に取り組んだのは何故か。既存活用の事例の一つとして出しているのか。
【連】
空き家空き地問題はどこにでもあるし、身近なもので学生自身が取り組みやすいテーマである。そこからまちづくりや都市計画に繋げる思考を持つことを狙っている。
【阿部】
場所は１章である必要はあるのか。事例であれば４章とかでも良いのではないか。１章が定義的なものが出てきており、４章、５章に具体的な事例が出てきているので。
【山田】
空き家空き地もそうだが、事例が東京型に偏っていないか。新潟と福岡の個別事例も載せた方が良いのでは。
【仁多見】
空き家発生のメカニズムには非常に興味がある。
【松村】
確かに東京、福岡、新潟はそれぞれ事情が異なっている。私の章の中でそれも入れた方が良いと思う。地域によって距離も大きさも違う。
【山田】
仁多見先生と今泉先生の地域特性についてのコメントなどを入れても良いのではないか。もしくは空欄であなたの町だったらどうだろうという事を学生に書いてもらうのも面白い。

【西川】

新潟や九州ならではの集落の消滅や福岡への人口集中等の問題も入れた方が面白いと思う。東京と九州、新潟の３点の特徴は非常に面白い。

【連】

二章については、建築設計と参加のデザインの話を当方が担当している。２－２、リノベーションまちづくり概論は連勇太朗が担当する。内容は添付資料の通り。仲介者としてのまちづくりファシリテーターのリノベーションにおける役割といったものを内容に入れてもらいたい。

【宮地】

住宅リノベーションの事例が多いので、リノベーションまちづくりの対象ともなる。中規模リノベーションの事例もどう入れるかも必要になってくる。

【連】

２－３インスペクション、耐震化、不燃化概論は向田氏が担当する。芦原義信事務所の管理建築士をやられた方、インスペクションの業務経験を多く持っておられる。実務的な面も含めて執筆をお願した。３－２建築まちづくり事例講義は三井所先生に担当していただく。被災地支援をされていた時の様々なプレーヤーをまとめ上げた経験を書いていただく予定。３章は合意形成ワークショップを扱い、３－１は阿部先生の担当。

【阿部】

以前、「まちづくりデザインゲーム」というワークショップの進め方を執筆したが、読み物としては面白くない。ワークショップをやるときに参考にして、行政と進める時に役立つようなマニュアルや指南書のようなもの。今回はそのような内容では学生向けのテキストには適さないと考えた。最初に、色々なワークショップがある中で、今回の対象としているワークショップは建築系専門学校生がまちのデザインをしたり、まちの空間を作っていく、そして公共の建築やまちの改修等を進めていく中で、地域の皆さんや関係者とワークショップ形式で議論をして合意形成をしていくものに限定して記述する。その後にそれに必要なツールを記述する。これは一般的なワークショップに必要なツールや方法。それだけでは空間、デザインに関する合意形成は難しいのでツールとして模型や事例写真といった空間をイメージするも必要としている。次に、その方法を羅列しているが、それだけではわかりづらいので、気仙沼の事例を通して記述する。連先生の内容と重複しているように感じるので、最初のワークショップとは何かとか、ワークショップの手法についてもっと書いた方が良いのか、しかし、そうするとただの羅列になってしまい学生にとって面白くないのではないかと色々考えている。野澤先生も書かれている通り、将来図をみんなで考えて実現していくというものなので、調整役だけではなく、建築の提案等も行うファシリテーターというものの定義をしっかり示した方が良いと思っている。

【連】

写真がふんだんに使われているのは非常に良い。阿部先生の執筆内容に合わせて３－２を執筆するので、整合性について気にする必要はない。ワークショップの参加対象をどうするか、それによって進め方が変わる。募集方法等についても言及して欲しい。ワークショップに地域の代表者として参加するのか個人として参加するのかで立場が異なり、どの立場で発言すればよいか、本人が困っていることが散見される。個人として参加して本音を言う事が大事なので、それについて言及したい。

【西川】

台東区で初めてワークショップを開催しようとしているが、誰をどのように呼んだらよいのかを悩んでいる。

【阿部】

ワークショップをしたら全て解決するわけではないのであるが、誤解している方が結構いる。ワークショップの開催が目的化しているケースがある。あくまで合意形成のプロセスとしてワークショップがある、という事も書ければと思う。

【安藤】

執筆概要は、添付資料の通り。建築と不動産のあいだにある独特な断絶については創造系不動産としても問題提起して取り組んでいる。また、建築不動産コンサルタントとしてどのようにまちづくりファシリテーターに関わっていくかについて書いている。

【連】

学生に分かりやすく、図や写真を活用して欲しい。事例を通して説明するのがあっても良いと思う。そこに難しさが見えたり、面白みが見えたりというのが感じられると良い。不動産と建築を繋いだことによってお客様が Happy になったというような事例があると、そこで学生が不動産の役割や建築との関わりの大切さを感じることになると思う。

【松村】

学生には「お金」の話がピンとくる。卒業制作で空き店舗に小さな家具のようなシェルターを入れることで民泊にも使えるし外国人の避難場所にも使えるというものを事業者にプレゼンに行ってもらった。事業者はこれなら 10 万円で貸せると言って、何人泊めればペイできるか、初期投資はいくらになるかという部分に対して、学生の食いつきが非常に良かった。じゃあ材料費はこれくらいで抑えれば良いんだ等の考えも出ていた。難しいかもしれないが、事例について金額もいれると面白いと思います。

【西川】

ここで書かれるのは不動産で働こうではなく、どのように不動産を使うのかということだと思う。宅建業、不動産屋になろうという風にも読める。不動産の仕事をファシリテーターとしてどのように利用しようかというスタンスが大切。

【松村】

企業ヒアリングでも空き家コンペの審査員をされた方がいたが、出てくるものが夢いっぱいのものが多く、コスト感覚が欠けていた、それを聞き出すのもファシリーテーションという意見もあった。コスト感覚がついたり、不動産というものが一部のパートなんだというものが事例から表出すると良いと思う。

【阿部】

ファイナンスに関し、建物の価値がどのように決まってきているのかが見えた方が良い。

【松村】

今はお金にならないけど、後々はこのまちの価値向上につながるという部分等の判断指標が見えてくると面白い。

【連】

建設費や相続や隣地境界等の身近な問題から導入部分を分かりやすく説明して貰えればありがたい。４－２、今後の不動産業、宅建士の役割、は田中さん担当、５－１、事前復興まちづくりを市古先生が担当、５－２、保存・修復とまちづくりを渡邊先生に執筆してもらう。

【北村】

５－３環境、エネルギーとまちづくりを担当している。広義のエネルギーの創エネ、省エネが重要とされる部分が世界的な潮流になっている事をまず書きたい。COP や国連の SDGｓの一人も取り残されることなくといった国際的な目標も言及する。その中で太陽光のみではなく風力や太陽熱といった各種エネルギーがまちへ循環されるという事。さらに一人一人の活動が創エネ、省エネ、畜エネに繋がるという広い部分から狭い部分まで執筆する予定。

【連】

５－４エネルギーとまちづくりの実践は湯浅さんが執筆担当。「えねこや」というオフグリッドの設計事務所を実践されている。それを使った教育活動がまちづくりに繋がっている。

## ５、シラバス案

【連】

添付は案なので、詳細は来期詰めていく事になる。演習・実践を入れていくのに非常に難しく、知恵が必要になるので是非皆さんのアドバイスをいただきたい。特に遠隔地での実習については費用面等においても非常に難しい。松村先生から遠隔地実習についてのパイロット案を出してもらう予定。

## ６、遠隔地実習案

【松村】

動画を使った遠隔地実習案を見ていただく。添付資料および動画の確認。

【窪田】

色々な動画を共有しながら進めていくことは非常に面白い。今の若者は動画を発信したり、動画中で喋るという事に全く抵抗がない。但し、動画にコメントをつける事に抵抗がある人はいるし、中傷コメントが付いてしまう事も懸念材料になる。

【宮地】

コメントはチーム毎に入れてもらう、また授業として行うので、ルールをしっかりと明確にし、モラルを守ってもらうことが大切。

【阿部】

授業時間内のみということですか？

【宮地】

授業時間外でやることが重要だと思っている。例えば、今回、宮地は昼撮ったが、松村さんは夜、撮ったりとか、時間によって状況が異なることを理解することは大切だ。

【連】

今回実践授業は３コマ用意しているが、１コマ目で内容を説明し、次週までに動画をUP、２コマ目に皆で動画を見て公表するというプログラムということか。

【宮地】

動画を撮影する事とMAPに落とし込んでいく事を目的としている。動画を撮影し、それをまちの地図に落としていく作業が発生する。

【連】

MAPを使って２コマ目の授業で討議をするという事か。動画とMAPのかかわり方が曖昧かと思う。

【宮地】

MAP はメモ書き的なものもあるが、最終提出用に仕上げてもらう事もあるかと思う。なので、グループによってはMAPを２回作成してもらう事になる。

## 7、まちづくりファシリテーターイメージ／イラスト

【連洋助】

右側がまちづくりファシリテーターがいない世界、左側がまちづくりファシリテーターがいる世界で鏡面関係で表現している。右側の Before ではまちの皆さんの見えない声が描かれている。

４つの課題を表現している。

XS＝住宅

S＝マンションのリフォーム

M＝１本の大通り

L＝再開発

左側の After の方ではまちづくりファシリテーターが活躍し、まちの皆さんの声が聞けているところ。まちを育てる専門家というもので締めている。アイコンは手に持っている「ポインター」で、２０代前半の男女にしている。

【連】

右が Before で左が After である事は問題ないのか、逆の方が分かりやすくないか？

【松村】

私も指摘したが、漫画なので右から左に流れる事で問題ないと思う。

【山田】

どこで使用するのか。テキスト内か。

【連】

テキストの見開き、あるいはリーフレットでも使用可能と考えている。

【松村】

動画で見られる事と紙媒体で見られる事はまた別の物なので、漫画表現は、説明を受けた後、持って帰ってじっくり読むことできる良さがある。

【山田】

右と左の絵の対比の説明（記号）があった方が分かりやすいのか。どこから読めばよいか分からないのでは。

【今泉】

この漫画のこのシーンがテキスト内のどこに対応しているかがわかると良い。デジタル化して、クリックすると説明文が出てくるなど。

【連】

説明なしでも理解できるような表現が大切。

【宮地】

最初は分かりづらくても、読み進めていく中で気づきがあった方が、若者的には面白い。

【連洋助】

右と左で少しトーンを変える事や余白に文字情報を入れる事も考えている。

【阿部】

キャラの印象を強める事でも対比が分かりやすくなるかもしれない。再開発が今時のテーマなのかという点が気になった。例えば公共施設や公園をどうしていこうかなど、道路などタクティクルアーバニズム等。再開発が今からの若者の仕事になっていくのか。

【西川】

結果として高層ビルが建ってしまったのは変ではないか。

【連洋助】

小さい住宅レベルから大きいレベルである部分まで活躍するという分かりやすさを重視した。

【連】

再開発を入れるように要請したのは私です。理由として再開発する側のデベロッパーは住民参加をしてるつもりで実はできていない。まちづくり協議会がある場所では住民参加をする機会を作ることが大切だ。それがないところはどうしても地権者との交渉になり、周辺の方との意見交換が出来ていない。そういったところを描ければと思った。

【阿部】

それであれば左の絵が公園等になれば良いのかもしれない。

【連】

どうしても事業者側はお金の部分が重要になるので、緑地や公園等のオープンスペースを用意出来ないので、表現できると良い。

【西川】

右が高層ビルにして左に公園や池が追加されているようにすればどうか。

【連】

右が高層ビルの模型を持っていて、左側には公園などオープンスペースが出来ていて、そこで盆踊りが行われているなど。右は無機的な表現、左は有機的な雰囲気といったコントラストが欲しい。

【意見】

・まちに人が出てきている
・左側は笑顔になっている
・右は一人で左はグループになっている

■次回：３月５日　１４：００～開発分科会、１５：３０～１８：３０合同委員会

【資　料】　第二回調査分科会・第二回合同委員会
（第二回事業実施委員会、第一回開発分科会）会議資料リスト

- 委員リスト
- まちづくりファシリテーター養成講座概要
- まちづくりファシ事業計画　単年度版
- まちづくりファシ事業計画　事業全体
- まちづくりファシリテーター　テキスト構成案
- 第一回事業実施委員会・調査分科会議事録
- まちづくりファシリテーター　テキスト構成案
- まちづくりファシリテーター　シラバス案
- 調査進捗報告
- 調査１学校対象アンケート調査依頼書案
- 調査１ 学校対象アンケート調査原稿_
- 学校教員ヒヤリング調査記録
- 調査２　学生調査方法教員用
- 調査２　学生調査依頼学生用
- 調査３　企業ヤリング調査記録（旭化成ホームズ）
- 調査４　事例代表者ヤリング　ルーテル学院大ヒヤリング調査記録
- 調査４　代表事例　ルーテル学院大学　資料

第２回調査分科会

第２回合同委員会

**◯第二回開発分科会／2020年3月5日**

**①議事次第**

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第二回、開発分科会

〇日　時　：　2020 年３月５日（木）　14:30～15:30
〇場　所　：　建築家会館本館３階大会議室
〇出席者　：
委員：　連健夫、松村哲志、今泉清太（web 参加）、西川直子、阿部俊彦、山田俊之（web 参加）、大槻一敬（web 参加）、連洋助(web 参加)、古賀俊光（web 参加）

事務局　：　北村稔和、宮地洋、窪田伊吹
欠席委員：　仁多見透、

１、テキスト教材とシラバス
・進捗状況

２、挿絵、イラスト

３、街歩き教材

４、遠隔地事業

５、その他

□次回開催日：７月頃

②議事録

◯第二回開発分科会／2020年3月5日

【第二回開発分科会議事録】

記入者：北村稔和

■日時：2020 年３月５日（木）14：30~15：30

■場所：建築家会館本館３階大会議室

■出席者：連健夫、松村哲志、西川直子、今泉清太（WEB 会議）、連洋助(WEB 会議)、山田俊之（WEB 会議）、連勇太朗（WEB 会議）、阿部俊彦、大槻一敬、茨田禎之、古賀俊光（WEB 会議）、向田良文

事務局：北村稔和、宮地洋、窪田伊吹

■配布資料：議事次第、シラバスの運用方法案、調査報告（抜粋）、成果概要、漫画リーフレット、挿絵、テキスト原稿（一部）、新潟街歩きルート

１、テキスト教材とシラバス

・進捗状況

【松村】

シラバスの基本形として、30 コマを用意し、その中の約半分を実践としている。

講義は、都市計画系、建築デザイン系、合意形成ワークショップ、不動産マネージメント系修復防災エネルギー系で構成され、テキストの内容が反映されている。

実践は、「演習、見学、まち歩き、合意形成ワークショップ」の４つで構成されている。

シラバスの運用案４パターンを用意した。

Ａパターン：１年間

Ｂパターン：半年間

Ｃパターン：２ヶ月

Ｄパターン：２週間集中型

これにより、各学校の事情により、ここから選んで運営していただけるよう工夫した。

※経験学習及び振り返りの YWT シート作成も考えている。

【連】

講義と実践が交互に組まれている事に意義がある。これによりファシリテーターとして体得できるようになっていることがポイントである。

実証校以外の専門学校や大学にも使用できる様に工夫され、かつアレンジしやすいフレキシブルな内容になっていて良い。

【山田】
当校（日本工学院専門学校）では B パターンが３年生の前期もしくは後期で開始するのが良いと考えています。

【今泉】
当校（麻生建築＆デザイン専門学校）では、３年コースである都市計画コースの３年生で、Ｂパターンで行うのが良いのではないかと考えている。

【松村】
経験学習の部分モデルについては経験→省察→概念化→実験というスパイラルを当シラバスの１５コマや３０コマの中で行えるように工夫している。これは、実践を行った後で、次の回までに YWT シートを作成し、授業の最初にこれを元に話し合い振り返りをする事で上記のモデルの実行が出来ると考えます。

【茨田】
経験から入る事もできるのか？

【松村】
このサークルはどこからでも入れるが、経験から入るのが一番良いとは思う。

【連（勇）】
地域の専門家に非常勤講師として１コマ参加してもらうという事もあると思うので、その事も想定して２コマ連続の演習枠等を用意した方が良いと思います。
２ コマがまとまっていると ３ 時間を自由に使えることになるので街あるきやワークショップなどのプログラムを作りやすい。

## ２、挿絵、イラスト

【連（洋）】
右側がまちづくりファシリテーターがいない時のまちで、白黒で表現されており、左側がまちづくりファシリテーターが関与したと時の街でカラーで表現されているなど、左右のコントラストがあって良い。吹き出しの表現も異なっているなどの工夫がある。
左側には口内にファシリテーターの役割を書いて示してある。
右側の高層ビルの再開発も左側の方では低層かつ緑化が多くなっている。

【山田】
てにをは、や誤字があるので、その校正、調整が必要。

【今泉】
「まちづくりファシリテーターがいれば」の文字をもっと目立ちやすくした方が良い。

【茨田】
左側でマンションの横の住宅が更地にされて盆踊りが行われているが、そのストーリーが見えてこない。会話の中で触れても良いのでは。
右側のそば屋のスピードが出て危ないというコメントと左側の絵の因果関係が分からない。

【連（洋）】
道を蛇行させて、ガードレールを緑化、電線を地中化する事で、速度抑制と安全性向上を PR するものにしている。
→道路の表現にメッシュをかけるなど、床の材料を変えて車のスピードを落とす工夫を表現する。

【宮地】
左側のマンションのウッドデッキや人の活動が歩道にはみ出している様に見える。道路の位置づけを明確にしたほうが良いのではないか。

【大槻】
編集者で不動産建築系のライターをしています。今回のスキームでは、テキスト編集及びリーフレット等の作成が出来るかと思っています。
当イラストについては特に意見はありません。

【松村】
当方担当の「まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力」についてのイラストですが、聞いて提案をするだけではなく、コミュニケーションの中で調整しているところも表現してもらえばと思います。

【連（勇）】
当方担当の「リノベーションまちづくり概論」のイラストですが、単純に塀をなくすという単独建築の話では無く、何ケ所か事例を加えて、街にこのような手立てが増えていっている雰囲気がでるように工夫してもらえばと思います。

## ３、街歩き教材、遠隔地授業

【松村】

福岡市の街歩きパイロット版を作成。新潟も間もなく作成予定。この資料はその街歩きルートを示したものです。来期以降完成版を作成して実証事業に繋げていく予定です。

【西川】

テキストの構成ですが、１章は、都市計画とまちづくりの枠なので、１－４として空き家空き地活用概論が入っているのは、やや唐突な感じがします。

→饗庭さんが書かれた内容を読んでみると、第一章になじむように書かれている。空き家空き地について都市のスポンジ化から説明されていて、都市計画の意味合いの拡がりが感じられて良いと思う。（連）

◯第三回合同委員会／2020年3月5日

①議事次第

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第三回、事業実施委員会・調査分科会・開発分科会　合同委員会

〇日　時　：　2020 年３月５日（木）　15:30～17:30
〇場　所　：　建築家会館本館３階大会議室
〇出席者　：
委員：連健夫、松村哲志、松本昭、市古太郎、渡邉研司、里中勝哉(web 参__加)
高橋寿太郎(web 参加)、西川直子、茨田禎之、連勇太朗(web 参加)、
阿部俊彦、大槻一敬(web 参加)、連洋助(web 参加)、古賀俊光(web 参加)
田中裕治、向田良文

事務局　：　北村稔和、宮地洋、窪田伊吹
欠席委員：　山田俊之、仁多見透、今泉清太、野澤康

０、前回議事録確認

１、文科省報告書関係

２、調査関係結果報告

３、テキスト

４、挿絵、イラスト

５シラバス

６街歩き教材

７遠隔地事業

８その他

□次回開催日：７月頃開催

②議事録

◯第三回合同委員会／2020年3月5日

【第三回合同委員会、議事録】

記入者：北村稔和

■日時：2020 年３月５日（木）15：30~18：00

■場所：建築家会館本館３階大会議室

■出席者：連健夫、松村哲志、西川直子、今泉清太（WEB 会議）、連洋助(WEB 会議)、山田俊之（WEB 会議）、連勇太朗（WEB 会議）、阿部俊彦、高橋寿太郎、大槻一敬(web 参加)、古賀俊光(web 参加）茨田禎之、市古太郎、渡邉研司、松本昭、田中裕治、向田良文

事務局：北村稔和、宮地洋、窪田伊吹

■配布資料：議事次第、シラバスの運用方法案、調査報告（抜粋）、成果概要、漫画リーフレット、挿絵、テキスト原稿（一部）、新潟街歩きルート

１、委員紹介（自己紹介）

【田中】

不動産業者には取り扱ってもらえないような空き家、空き地の取り扱いを行っている。全国を対象に１円の物件から売買・賃貸をしている。

【向田】

インスペクション、耐震化、不燃化のテキスト作成を担当している。

４年程前から空き家含めてまちのインスペクション等を１４０件程行っている。

２、前回議事録説明

【北村】

第二回議事録説明

３、文科省報告書関係

【松村】

成果報告書の項目紹介。調査報告書の抜粋の報告。2019 年度の事業成果概要の説明。

調査結果において「まちづくりファシリテーターは必要である」と結論づけられる。同時にその為にはコミュニケーション能力、素養の育成、働き方の確立等が課題であるという意見も多く見られたことがポイントです。

赤色で表現した部分は 2019 年に取り組んだ内容、青色の部分は 2020 年に取り組む内容、黄色の部分は既存の内容となっています。

【阿部】
建築という専門性を持った上でのファシリテートが重要だと考えます。
この図は、ややてんこ盛り的なので、重要な部分を目立たせる工夫（メリハリ）が必要なのではないかと思います。

【松本】
ファシリテーターというものの定義について本講義に関わる方の共有意識を再確認したい。
合意形成というものはステークホルダーが確定しているケースと確定していないケース、決定するのかしないのかという２軸がある。そのマトリックスのどの部分を対象としているのかも明確にした方が良いと思います。
→テキストのはじめにと序論で、このスキームでのまちづくりファシリテーターの定義を明確化している（連）

【市古】
建築を作りたいという若者の意識を伸ばしてあげたいという部分に収斂するのかと思います。その中でシラバスに対する工夫もしてあるのが良いと思います。
２１世紀のまちづくりファシリテーターとはといった部分も議論を重ねていくと決まっていくのかと。
また、海外向けにも適用する事を考えていく事が必要だと思います。

【連（勇）】
講座の為の資格ではなく社会的意義の部分を意識することが必要だと思う。つまり社会に広げていく戦略がわかるようにしたほうが良い。
Ｔ と Ａ の違いは分かるが、Ｔのワードの工夫がほしい。

【連】
Ｔ型人材像というものは「幅広い知識」と「専門的な知識」を持った人材。
Ａ は前向きなコミュニケーションを行う態度の事を表現している。

【連（勇）】
講座の内容だけではなく、Ｔ は人材像というより知識やスキルを意味しているのではないか。

【高橋】

建築の専門性がなぜまちづくりに向いている事を明確にすることが大切と思う。建築士・建築家がファシリテーターをすることが非常に有効なのは実際のケースを見ても明らか。

【茨田】

まちづくりファシリテーターの重要性や必要性について、社会認知の部分が重要かと思います。そのアピール戦略が大切と考える。

【渡邉】

東海大学の教員、DOCOMOMO　JAPAN の代表をしています。
テキストにおいて、保存、修復とまちづくりの部分を担当している。
文字離れの学生にも、理解できるような表現が大切。

## 4、テキスト

各自テキスト（原稿）に沿って説明。
〇印が、今年度の完成成果物、ついていないのは来年度の予定。

〇■序章　まちづくりファシリテーターとは何か？

■1 章、都市計画系（建築から街へ）
〇1－1、都市計画における住民参加とファシリテーターの役割
（都市計画の歴史の中での住民参加、専門家、ファシリテーターの役割）
1－2、まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力
（まちづくりファシリテーターのコミュニケーションスキルと実践）
1－3、地域特性を活かす規制や法律
（地域特性を活かすルール、規制や法律、まちづくり条例について学ぶ）
〇1－4、空き屋、空き地活用概論
（空き家空き地の現状と課題、その活用策、行政の対応や助成制度、
担い手について学ぶ）

■2 章、建築デザイン系（ストック活用のデザイン）
2－1、建築設計と参加型のデザイン
（建築設計における参加型の設計プロセスを事例を通して学ぶ）
〇2－2、リノベーションまちづくり概論
（リノベーションとは何か？まちづくりとの関係、事例を通して学ぶ）
2－3、インスペクション、耐震化、不燃化概論
（インスペクション、耐震化と不燃化の技術、方法、助成制度、
木造、RC 造、S 造の構造別に理解する）
2－4、建築・まちづくり事例講義
（建築とまちづくりとの関係を事例を通して学ぶ）

■３章、合意形成ワークショップ系（参加者の心をつかむ）
〇３－１、まちづくりの手法①
（まちづくりの目的に応じた手法、参加対象や募集の方法、
実践スケジュールの立て方を理解する）
３－２、まちづくりの手法②
（まちづくりの具体的手法を学ぶ、自己紹介、合意形成、街歩き、KJ 法、
コラージュの方法を理解する。）

■４章、不動産・マネージメント系（不動産や経営をとらえる）
〇４－１、建築と不動産
（建築と不動産、経営、税金について理解する）
〇４－２、今後の不動産業、宅建士の役割、
（今後の不動産業、宅建士の役割、マイナス不動産の活用を学ぶ）

■５章、修復・防災・エネルギー系（災害や保存、省エネをとらえる）
５－１、事前復興まちづくり
（事前復興まちづくり訓練、防災やフェーズフリーデザインを理解する）
５－２、保存・修復とまちづくり
（保存、修復とまちづくり、歴史的建築物と近代建築の保存、指定・登録、
利活用）
５－３、環境、エネルギーとまちづくり
（SDGｓ、エネルギーとまちづくり、省エネ技術について学ぶ）
５－４　エネルギーとまちづくりの実践
（実践事例を通して、エネルギーとまちづくりを捉える）

## ５、シラバス

基本は 30 コマの構成、

シラバスの運用案として４パターンを用意した

Ａパターン：１年間

Ｂパターン：半年間

Ｃパターン：２ヶ月

Ｄパターン：２週間

これにより、学校の事業で選択して運用する。

## ６、街歩き教材

福岡での街歩き実習の街歩きパイロット版を紹介。

## ７、挿絵、イラスト

各項目ごとに挿絵、イラストを作成し、読み手に分かりやすくする。

各執筆担当者とコンタクトをとって挿絵、イラストの表現を調整する。

【資　料】　第二回開発分科会・第三回合同委員会
（第三回事業実施委員会、第三回調査分科会）会議資料リスト

- まちづくりファシリテーター　テキスト構成案
- テキスト（一部）
- テキスト執筆概要（一部）
- まちづくりファシリテーター養成講座　シラバス運用案
- まちづくりファシリテーター養成講座　2019年事業成果概要
- まちづくりファシリテーター　PR用　漫画
- 調査報告書　抜粋
- 前回議事録

第二回開発分科会

第三回合同委員会

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、《一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構》が実施した２０１９年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

2019 年度 文部科学省
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
まちづくりファシリテーター養成講座
事業概要報告書

令和 2（2020）年３月
一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構
https://jcaabe.org